MS・キャラクター・ヒストリー —— 全ガンダムシリーズの完全記録

THE OFFICIAL GUNDAM PERFECT FILE

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

定価590円（税込）
2012/4/17
28

MECHANIC FILE

ケルディムガンダム／
GNアームズ（TYPE-E／TYPE-D）／
ガッデス／ガガ／ザク・キャノン／フリーデン

PERSONAL PROFILE

ロックオン・ストラトス
（ライル・ディランディ）／
アニュー・リターナー／
シーリン・バフティヤール／
ジャミル・ニート

WORLD GUIDE

ソレスタルビーイング再始動／
センサーと通信システム／
バルチャー

AD TIMELINE

CB殲滅作戦、発動

GLOSSARY

『機動戦士ガンダム』
用語集

GUNDAM TOPICS

バンダイ
Ver.Kaシリーズ

今週のMS❶
GN-006 CHERUDIM GUNDAM

ライル・ディランディ

センサーと通信システム

DeAGOSTINI
インターネットでパートワークをより楽しく deagostini.jp

THE OFFICIAL GUNDAM PERFECT FILE

CONTENTS

第28号　目次

MECHANIC FILE　メカニックファイル

ケルディムガンダム	00	FILE:01 / SHEET:09A	28-1
GNアームズ（TYPE-E／TYPE-D）	00	FILE:01 / SHEET:05A	28-5
ガッデス／ガガ	00	FILE:01 / SHEET:49A	28-7
ザク・キャノン	AGS	FILE:01 / SHEET:15A	28-9
フリーデン	X	FILE:01 / SHEET:16A	28-11

PERSONAL PROFILE　パーソナルプロファイル

ロックオン・ストラトス（ライル・ディランディ）	00	FILE:02 / SHEET:03A	28-13
アニュー・リターナー	00	FILE:02 / SHEET:21A	28-15
シーリン・バフティヤール	00	FILE:02 / SHEET:36A	28-17
ジャミル・ニート	X	FILE:02 / SHEET:03A	28-19

WORLD GUIDE　ワールドガイド

ソレスタルビーイング再始動	00	FILE:03 / SHEET:10A	28-21
センサーと通信システム	FG	FILE:03 / SHEET:29A	28-23
バルチャー	X	FILE:03 / SHEET:20A	28-25

AD TIMELINE　西暦年表

CB殲滅作戦、発動	00	FILE:04 / SHEET:05	28-27

GLOSSARY　ガンダム用語辞典

『機動戦士ガンダム』用語集	FG	FILE:05 / SHEET:21	28-29

GUNDAM TOPICS　ガンダムトピックス

バンダイ　Ver.Kaシリーズ	FG	FILE:06 / SHEET:12	28-31

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』

特製バインダー好評発売中

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は、特製バインダーを使ってファイリングしていくユニークな雑誌です。この特製バインダーを、全国の書店で販売しております。2冊セットで590円（税込）。ぜひお買い求めください。

※このバインダーには、ディバイダー（仕切り用紙）はついていません。
　創刊プレゼントのバインダーについているディバイダーをご利用ください。
※1冊のバインダーに、本誌約10冊分を綴じることができます。

［発行日］2012年4月17日
［発　行］株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
　〒104-6205　東京都中央区晴海1-8-12 トリトンオフィスタワーZ
［発行人］小河原和世
［編集人］クロス中山慶子
［チーフエディター］安部 翠
［アートディレクター］今福健司
［印　刷］大日本印刷株式会社

©2012 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.
本誌の記事・写真・絵画等を無断で複写（コピー）、転載することを禁じます。

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は、2004年に弊社が刊行した週刊『ガンダム・ファクトファイル』の一部を流用しておりますが、最新のシリーズ作品やガンダム関連情報、新規描きおろしイラストなどを多彩に盛り込み製作したビジュアルマガジンです。

［編集協力］MEGALOMANIA（富田英樹／渡邉洋三／高村泰稔／本田あきら／鈴木秀治／公森直樹／桑木貴章）
［執　筆］坂口徳仁／杉山和繁
［デザイン］ケークルーデザインワークス（中村亮平／萩口洋文／出嶋 勉／生馬沙知子／冨岡哲也／及川深紗子）
［表紙イラスト］高瀬健一
［監　修］株式会社サンライズ

©創通・サンライズ
©創通・サンライズ・MBS

●読者サービスセンター

（本誌関連の一般的なご質問を承ります）
TEL：0570-008-109（月～金 10:00～18:00 土日祝を除く）

定期購読のご案内

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は毎週火曜日発売のマガジンシリーズです（一部地域を除く）。シリーズは全180号を予定しています。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄りの書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての直接定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者受注センターに電話またはファクスで
　TEL：0120-300-851（フリーダイヤル 9:00～21:00 年末年始を除く）
　FAX：0120-834-353（フリーファックス 24時間受付）
2. インターネットで
　http://deagostini.jp/gpf/（24時間受付）
　※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
3. 定期購読申し込み用紙を郵送で
　「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合は受注センターまでご連絡ください。

バックナンバー／バインダー注文のご案内

本誌のバックナンバー／バインダーは最寄りの書店でご注文ください。なお、バックナンバーの在庫数には限りがございますので、その旨ご了承ください。直送（別途送料要、代引き）のご注文も承っております。上記読者受注センターまでお問い合わせください。

【個人情報の取り扱いについて】お客様ご注文時に下記規約を必ずお読みください。1. 弊社は、商品発送と連絡、商品開発のためのデータの集約と分析、プレゼント発送、商品情報のお知らせのご案内の発送、不良品対応の場合のお客様への連絡及び割賦品の督促、以外の目的で個人情報を利用しません。2. 弊社はお客様に事前にご了承を得た場合、及び下記の場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示しません。（1）法令に基づき、司法、行政、または権限機関から情報開示の要請を受けた場合（2）クレジットカード決済のため、弊社と同等以上の管理体制を有する会社への情報提供の場合。3. 弊社は注文受付、配送、代金回収、カスタマーサービスなど、業務を行う上で必要な範囲で委託することがあります。委託先は契約等により厳重に管理され、業務遂行上必要な個人情報を利用し、それ以外の目的では利用しません。4. 個人情報の収集に関するお客様の選択は、お客様の任意です。定期購読やプレゼント等の申込書に未記入部分がある場合、手続がとれない可能性もありますが、それ以外の不利益は生じません。ご購入窓口・定期購読受注センター　0120-300-851）5. 個人情報の利用目的の通知、個人情報に関する開示、訂正・追加・削除、利用停止・消去（第三者への提供の停止、又は苦情の申し出は下記窓口までご連絡下さい。デアゴスティーニ・ジャパン個人情報保護相談受付窓口　電話番号　03-5333-1722　受付時間　10:00-18:00（土日・祝日、弊社休業日を除く）ホームページで個人情報保護の詳細をご案内しております。http://deagostini.jp/pp.html

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
http://deagostini.jp/gpf/

このパーフェクト・ファイルで扱うガンダムシリーズ

本誌では、映像化された28作品のガンダム・シリーズを中心に取り扱います。OVAや映画など、異なる形態でリリースされた作品も各シリーズにまとめ、ひとつのシリーズとしてアイコン化しています。また、書籍やゲーム、プラモデルなど、映像化されなかった作品を「AGS」としてまとめて取り扱います。

■宇宙世紀を舞台にしたシリーズ

- FG 機動戦士ガンダム
- 08 機動戦士ガンダム 第08MS小隊
- IGL 機動戦士ガンダム MS IGLOO 1年戦争秘録、黙示録0079
- IGL2 機動戦士ガンダム MS IGLOO2 重力戦線
- GC GUNDAM CRISIS
- RIDE GUNDAM THE RIDE
- 80 機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争
- 83 機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー
- Z 機動戦士Zガンダム
- GD ガンダム新体験 −0087− GREEN DIVERS
- ZZ 機動戦士ガンダムZZ
- CCA 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア
- UC 機動戦士ガンダムUC
- F91 機動戦士ガンダムF91
- V 機動戦士Vガンダム

■宇宙世紀とは別の世界を舞台にしたシリーズ

- GG 機動武闘伝Gガンダム
- W 新機動戦記ガンダムW
- EW 新機動戦記ガンダムW Endless Waltz
- X 機動新世紀ガンダムX
- V ∀ガンダム
- SEED 機動戦士ガンダムSEED
- DES 機動戦士ガンダムSEED DESTINY
- SG 機動戦士ガンダムSEED C.E.73 STARGAZER
- 00 機動戦士ガンダム00
- AGE 機動戦士ガンダムAGE

■その他の作品

- AGS 非映像化作品 ※AGSは「ANOTHER GUNDAM STORY」の略です。
- RG Ring of Gundam
- EVL GUNDAM EVOLVE

多彩な射撃を可能とするデュナメスの発展機

GN-006

ケルディムガンダム
CHERUDIM GUNDAM

■ SPEC

全高	——（頭頂高 18.0m）
重量	58.9t
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	Eカーボン
武装	GNビームピストルⅡ×2／GNスナイパーライフルⅡ／GNシールドビット×9 他
所属	ソレスタルビーイング
搭乗者	ロックオン・ストラトス

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

頭部
メインカメラを備えるほか、前頭部にはクリスタルセンサーを設置。狙撃時にはセンサーが展開し、精巧な射撃が可能となるスナイプモードへと移行した。

肩部
左肩には、装甲としても機能するGNシールドビットを2基装備。肩部から取り外し、無線誘導兵器として運用することもできた。

背部
GNドライヴは、GNシールドビットにエネルギーを供給するため腰部に移動し、背部のスペースにはスラスターが備えられた。

脚部
両膝にもGNシールドビットが各1基ずつ設置されている。膝関節の上に装着されており、可動性を妨げないように配慮されている。

新たな“ロックオン”が搭乗した射撃戦仕様

西暦2312年、本格的に活動を再開したソレスタルビーイング（CB）は、西暦2307年の戦いで死亡したロックオン・ストラトス（ニール・ディランディ）に代わる新たなガンダムマイスターとして、ニールの双子の弟であるライル・ディランディをロックオン・ストラトスとしてスカウトした。兄の遺志を継ぎ、世界の変革を目指すことになった彼の乗機として新たに用意されたのが、オリジナルGNドライヴを搭載したケルディムガンダムである。

ケルディムガンダムは、ニールが搭乗したCBの第三世代機、ガンダムデュナメスの発展型である。デュナメスは長距離からの狙撃や後方支援を得意とするタイプであったが、本機ではバルカンモードも持つGNスナイパーライフルⅡや無線誘導型の攻防一体型兵器・GNシールドビットなどを新たに装備したことにより、戦闘の幅がさらに広がっている。また、パワーアップ機構であるトランザムモードへの対応や、ハロをサブコントローラーとしたコクピットの改良など、基本性能も向上。単機でも最前線で充分に活躍できる機体として、対アロウズ／イノベイド勢力との長期間に亘る戦乱においてその実力を発揮した。

関連ファイル

GN-002 ガンダムデュナメス	00-01-04
GN-010 ガンダムサバーニャ	00-01-16
ロックオン・ストラトス（ライル・ディランディ）	00-02-03
西暦のガンダム	00-03-20
GN粒子とGNドライヴ	00-03-21

FILE PREVIEW

00-01-16 GN-010 ガンダムサバーニャ

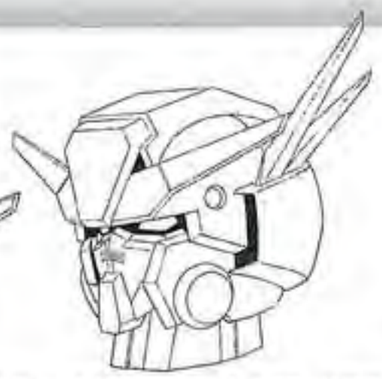
ケルディムガンダムの特徴を受け継ぎ、さらに戦闘力が強化された長距離射撃型MS。攻撃／防御に使えるGNホルスタービットなどを備える。

構　造　射撃への特化とそれを可能にする構造

ケルディムガンダムは射撃兵装を効率的に用いるため、構造にも様々な工夫が成されていた。狙撃能力を高めるだけでなく、トランザム発動時にはフォロスクリーンが展開／情報処理能力が向上するスナイプモード、射撃時の安定性を高めるため、足裏と踵に装着された接地パーツなど、外部構造はデュナメスに比べ大きく変更された。一方でコクピットも、スナイプシステムが小型化して運用が容易となったほか、ハロを射撃管制のみならず、GNシールドビットの運用にも用いる機能を付加し、スムーズな射撃戦を可能としていたのである。

トランザムモードでは、出力の向上によって攻撃力が強化されたほか、スナイプモードの活用により狙撃能力が向上する恩恵を得ている。

■ 頭部



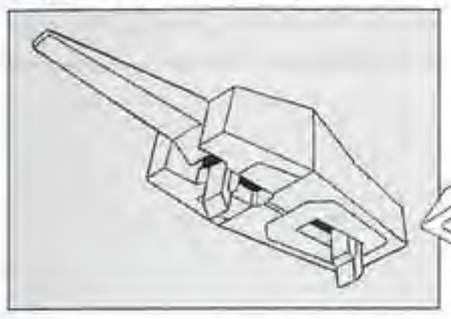
ケルディムの前頭部は、スナイプモード用のクリスタルセンサーが搭載されているため、2基のクラビカルアンテナが左側頭部に設置されている。

■ スナイプモード

クリスタルセンサーのカバーが展開すると、スナイプモードへ移行。トランザム時には、右上の図のように、フォロスクリーンが表示される仕組みとなっていた。

■ 接地パーツ

狙撃時には、下図のように足裏に設置されたツメと踵部分のパーツを倒して用い、機体の安定性を高める構造となっていた。

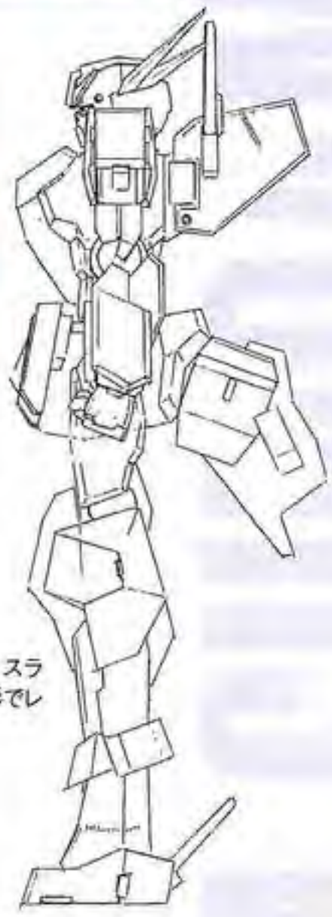


■ 胸部構造

デュナメスのような大型のシールドはなく、胸部・腰部には固定式の装甲が設置されている。腰部サイドアーマー上には、GNシールドビットが装備された。

■ GNドライヴ

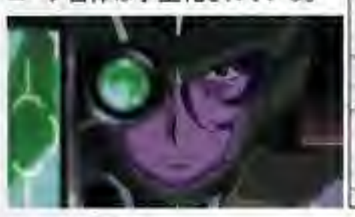
腰部リアアーマーに接続されたGNドライヴの本体。通常はGNシールドビット3基に囲まれるように設置されており、外部から本体が見えないようになっていた。

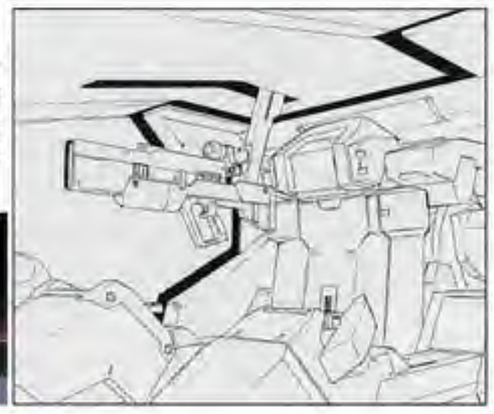


ケルディムの側面図。背部は、スラスターとGNドライヴが突き出る形でレイアウトされているのがわかる。

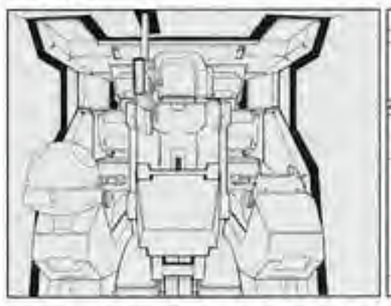
■ コクピット

ケルディムのコクピットには、スナイプモード用のスコープが天井部分に設置されており、使用時には展開される。デュナメスに比べ、スコープ自体は小型化されている。





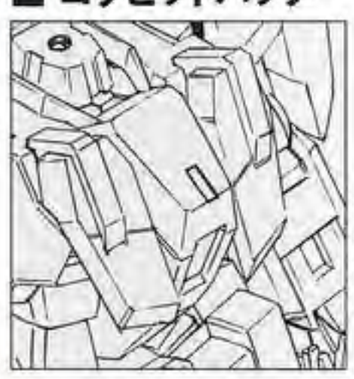
▼正面



▼ディスプレイ側

コンソール右側にハロを設置し、サブコントローラーとして使用する構成はデュナメスから継承されている。

■ コクピットハッチ

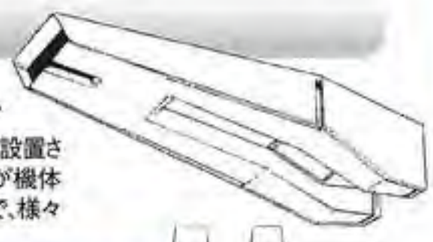


胸部装甲の下に設置されたコクピット。パイロットの乗降時には、装甲が斜め下方にスライドし、ハッチが展開する方式となっていた。

武　装　大幅に進化した射撃兵器群

本機の兵器構成は、デュナメスをベースとしつつも改良が加えられている。中でもGNシールドビットは、機体から分離・（ビット同士が）合体することで防御壁を形成できる新兵器で、ビーム砲によるオールレンジ攻撃も可能であった。また、格闘兵器は完全にオミットされ、GNビームピストルⅡで近接戦闘への対応を図るなど、複数の射撃兵器のみですべての戦況に対応できる究極の射撃戦仕様となっている。

■ GNシールドビット



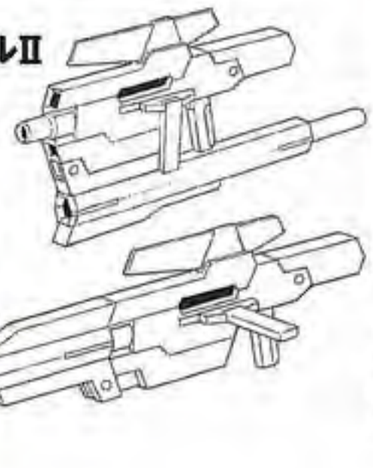
膝に2基、左肩に2基、背部に5基設置された無線誘導式兵器。右は、各基が機体から分離し、防御兵器を形成した図で、様々な形状での合体が可能。

■ GNビームピストルⅡ

本機唯一の近接戦闘用武装。MSを一撃で撃破するほどの威力はないが、連射性能に優れた射撃兵器として牽制などに用いられた。

■ GNスナイパーライフルⅡ

長砲身の射撃兵器で、優れた狙撃能力を持つ。砲身も折り畳むことで3連装のバルカン砲となる。非使用時には右肩にマウントすることが可能であった。



■ 腰部ミサイルランチャー

腰部フロントアーマー内に設置されたミサイルランチャー。使用時には装甲が展開し、次々とミサイルを射出できる構造となっていた。

牽制用／迎撃用として用いられた小型ミサイル。1基のランチャーに2基のミサイルを装填・発射することができた。

MORE INFO!

ケルディムガンダムGNHW/R

アロウズ／イノベイド勢力との最終決戦を前に、CBが武装を強化したケルディム。GNビームピストルⅡが4丁となったほか、新装備として無線誘導式兵器GNライフルビットを設置し、攻撃力が大幅に向上している。外観はかなり重厚となったが、機動性の低下は最小限に抑えられたようだ。

GNライフルビットの装備によってケルディムの戦闘範囲が拡大。ダブルオーガンダムら他のガンダムとの連携も容易となった。

■ GNライフルビット

ライフルビットは右肩と腰部に搭載されたことに伴い、GNシールドビットが左肩へ移行した。

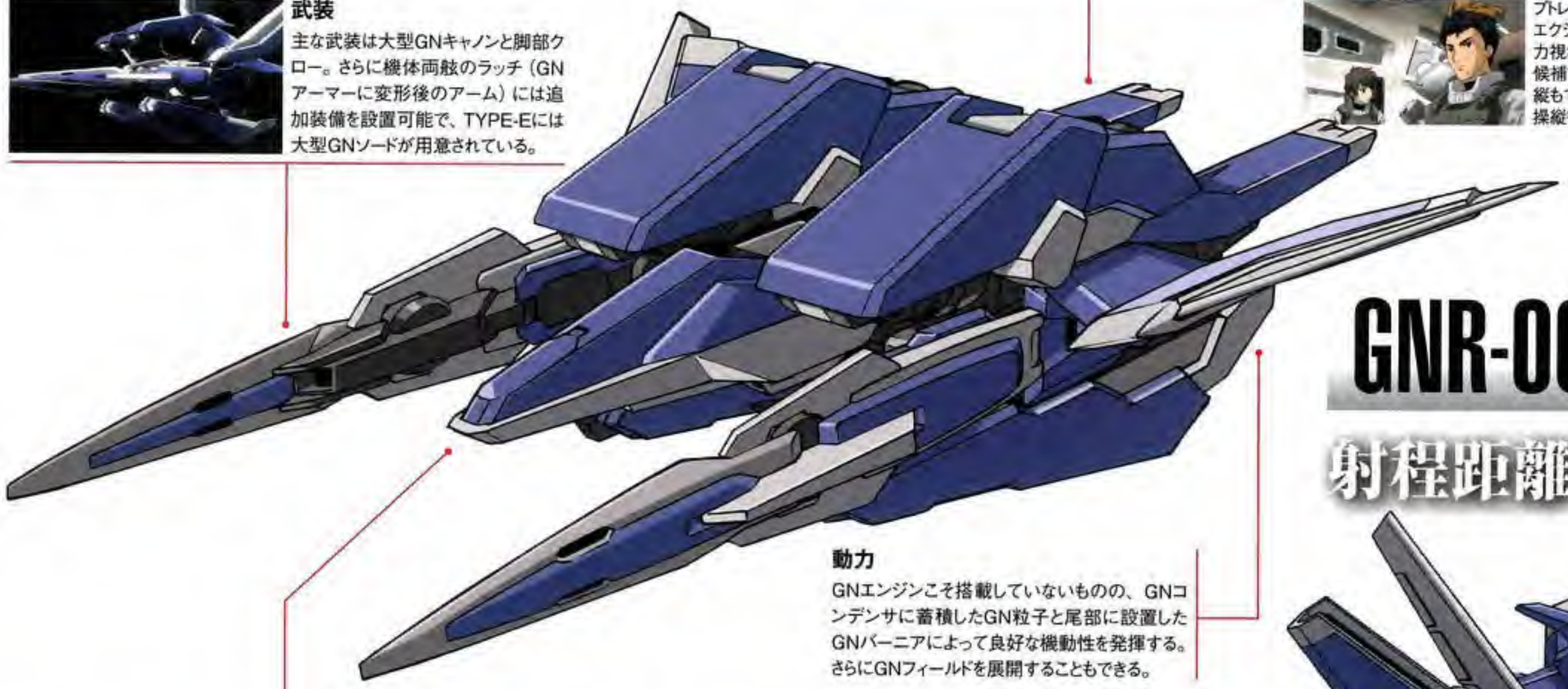
GNR-001E

GNアームズ TYPE-E
GN Arms TYPE-E

近接格闘戦を重視した支援機

機体構造
無重力下での運用を前提とした大型支援戦闘機という姿をしており、機体サイズに比して大火力を有する。さらに強襲用コンテナと合体すると単独での大気圏突入／離脱が可能。

武装
主な武装は大型GNキャノンと脚部クロー。さらに機体両舷のラッチ（GNアーマーに変形後のアーム）には追加装備を設置可能で、TYPE-Eには大型GNソードが用意されている。



動力
GNエンジンこそ搭載していないものの、GNコンデンサに蓄積したGN粒子と尾部に設置したGNバーニアによって良好な機動性を発揮する。さらにGNフィールドを展開することもできる。

コクピット
機体中央に位置するブロックが操縦区画。キャノピーはなく、外部視認はモニターを通じて行う。ちなみにガンダムとドッキングしている際は、ガンダム側から遠隔操作できる。

変形／合体機構
機体下部に位置するヒンジ部分から脚部を展開。さらにアームを左右に開くと「GNアーマー」と呼ばれる形態に変形する。こうすることでガンダムとのドッキングが可能になる。

関連ファイル

GN-001 ガンダムエクシア	00-01-02
GN-002 ガンダムデュナメス	00-01-04
プトレマイオス	00-01-20
刹那・F・セイエイ	00-02-01
ロックオン・ストラトス（ニール・ディランディ）	00-02-02
ラッセ・アイオン	00-02-08
西暦のガンダム	00-03-20

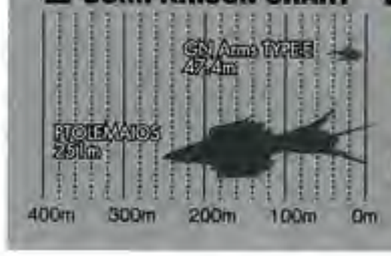
FILE PREVIEW
00-02-08 ラッセ・アイオン

プトレマイオスの砲撃手。元はエクシアのパイロットとして有力視されたガンダムマイスター候補であり、MSや戦闘機の操縦もできたためGNアームズの操縦を担当した。

SPEC -GN Arms TYPE-E-（基本スペックはTYPE-Dと共通）

全長	47.4m
武装	大型GNキャノン×2／大型GNソード×2／GNビームガン×2／大型クロー×2
所属	ソレスタルビーイング
搭載MS	GN-001 ガンダムエクシア
艦長	ラッセ・アイオン

COMPARISON CHART



COLOR

GNR-001D

GNアームズ TYPE-D
GN Arms TYPE-D

射程距離と火力に特化した支援機

運用法
支援戦闘機としての活動も可能だが、性能を最大限に発揮し、長時間戦闘を行うにはガンダムとの連携が必要である。そのためTYPE-Dは当初からGNアーマーとして運用された。

武装
TYPE-Dには長距離射撃を前提とした武装が施されている。最大火力を誇るのは右アームのGNツインライフルで、一撃で宇宙艦艇を撃沈する。

激化する戦闘を制するために実戦投入された新型機

「武力による紛争根絶」を標榜し、超大国に対する介入行動を実施するCBにとって、活動の本格化が超大国との軋轢と軍事衝突の増加をもたらすことは容易に予測できることだった。さらに軍事衝突の増加は、それだけCBが苦境に立たされることも意味していた。物量戦を展開する超大国に対し、CBの戦力は性能面では大きく凌駕していたとしても、その数に限界があったのである。実戦部隊であるプトレマイオスチーム（トレミーチーム）には4機のガンダムが配備されていたが、たった4機で世界を敵に回すのは無謀以外の何物でもない。とはいえガンダムは量産できず（GNドライヴの建造は高重力場に限られるとされる）、必要な機体数の確保は困難である。そのためCB開発陣は新規機体の建造ではなく、既存機体の強化を提唱。その結果、誕生したのがガンダム専用の支援戦闘機「GNアームズ」だった。単体での行動はもちろん、ガンダムとドッキングすることで機体性能を最大限に引き出すことを目的とした本機の登場によって、当初の懸案は回避されたと思われた。ただし、超大国（のちの国連軍）の戦力増強速度はCBの予想を遥かに上回っていたのである。

武装と装備　支援戦闘機でありながらMS以上の能力を獲得した装備群

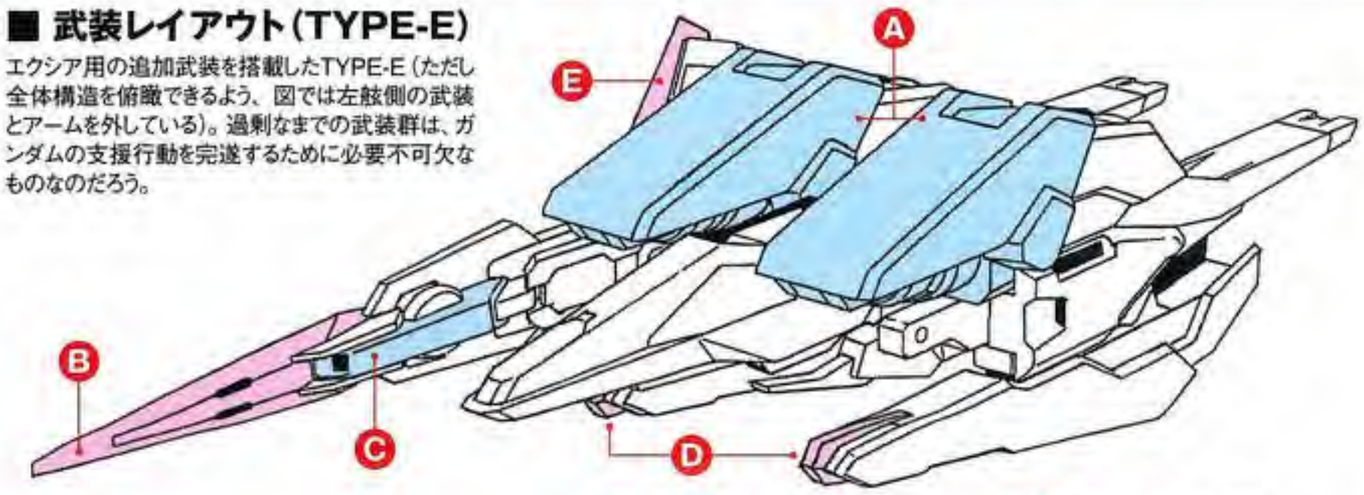
ガンダムの支援および連携行動を前提とするGNアームズだけに、それに必要とされる武装ないし装備が用意されている。GNドライヴは搭載していないが高濃度GN粒子を蓄積できるGNコンデンサの作用により、攻撃／防御／機動性の各能力が増強されているのだ。複数のエネルギー兵器（大型GNキャノンやGNビームガン）を運用できるのはGNコンデンサの賜物と言えよう。さらにGN粒子を推力に転用すれば、並みのMSを遥かに超える機動性を発揮し、防御面ではGNフィールドの展開も可能となる。本機は支援戦闘機でありながらMSに匹敵する性能を獲得したのである。ただしすべてはGN粒子の残存量にかかっており、GNコンデンサが底を尽けば機体性能は大幅な低下を余儀なくされる。だからこそ本機パイロットには、GN粒子の残存量に気を配りながら戦闘を継続するという技能が求められるのだ。

火力よりも連射性を重視して牽制役に使われるGNビームガンだが、エクシアのGNドライヴの出力を回すことで大型砲並みの火力を発揮する。

アルヴァトーレとの交戦の際、高速移動する相手に大型クローで取り付き、半ば強引に接近戦を敢行したこともあった。

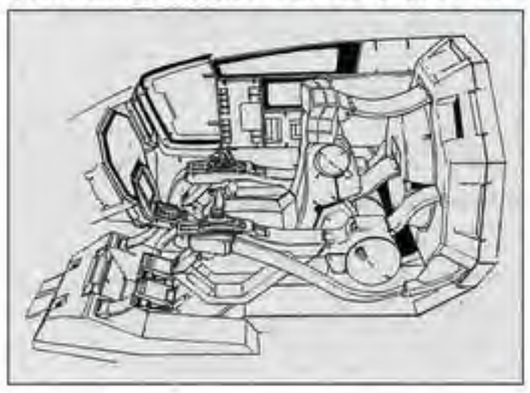
■ 武装レイアウト（TYPE-E）

エクシア用の追加武装を搭載したTYPE-E（ただし全体構造を俯瞰できるよう、図では左肢側の武装とアームを外している）。過剰なまでの武装群は、ガンダムの支援行動を完遂するために必要不可欠なものなのだろう。



■ コクピット（TYPE-E ／TYPE-D共通）

コクピットは単座仕様。複数の武装をひとりのパイロットでも容易に運用できるよう、機能的かつシンプルなレイアウトが特徴で、MSコクピットに近い姿をしている。



A 大型GNキャノン

機体上部に2基搭載されたエネルギー兵器。方形カバーの下に砲口が位置している。TYPE-Eが保有する固有および追加武装の中でも最大の火力を誇る。

B 大型GNソード

近接格闘戦を得意とするエクシアのために用意された武装。GNアームズ形態では効果的な運用はできないが、加速性能を活かした体当たりで標的を破壊した。

C GNビームガン

大型GNソードの刀身に設置されたエネルギー兵器。大型GNキャノンほどの火力はないが連射性と使い勝手に優れており、本機の主兵装として用いられたようだ。

D 大型クロー

脚部の先端に位置する3本爪のクロー。普段は引き込まれているが、使用時に爪部分が展開する。積極的に用いられず、あくまで近接防衛用の兵装である。

E クラビカルアンテナ

主翼ではなく、GN粒子の挙動を制御する特殊装備。機体外に放出されたGN粒子を制御してGNフィールドを形成するほか、外部からのビームの軌道を歪曲させるといった防御面に特化した機能を持つ。

GNアーマー　ガンダムとガンダムマイスターへの積極的支援を行うための形態

変形し、ガンダムとドッキングしたGNアームズはGNアーマーと呼ばれる。追加武装と増加装甲を兼ね、機動性の向上をも図るユニットとして相応しい名称である。ドッキングしたガンダムは背部コーン型スラスターと両脚部分が固定されるのみで上半身と腕部は自由に可動する。そのためGNアーマーの武装とは別に、ガンダムが保持する武器（ライフルやソード）が使用可能。その場合、GNアーマーの武装はガンダムマイスターが運用するが、GNアーマー側にパイロットが搭乗している場合、GNアーマーの攻撃管制はガンダムとは独立して行うこともできる。こうすることでガンダムマイスターの負担を軽減し、戦闘に集中させるのだ。その意味でGNアーマーは単なる支援機ではなく、ガンダムマイスターのサポート役としても機能すると言えよう。

■ GNR-001E+GN-001

エクシアとTYPE-Eがドッキングした形態。近接戦闘を重視しており、左右のアームにGNビームガンを内蔵した大型GNソードを装備している。

TYPE-Eとドッキングするエクシア。複雑な変形機構は有さないため、たとえ戦闘中でも任意に合体・分離が可能である。

GNフィールドを展開し、標的に接近戦を仕掛けるエクシア。攻撃面だけでなく防御力も向上したからこそできる強行策だ。

■ GNR-001D+GN-002

デュナメスとTYPE-Dがドッキングした形態。射撃戦に特化し、右アームにGNツインライフル、左アームに超大型GNミサイルポッドを装備している。

狙撃戦に特化した機体だが、GNミサイルを一斉発射することで戦況を覆し、戦場を圧倒するほどの能力を示したこともあった。

関連装備　支援機をサポートする特別装備

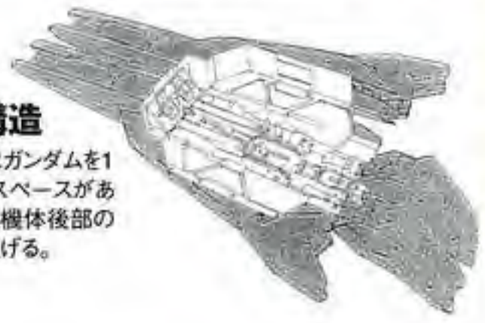
国連軍との決戦を前に、トレミーチームには2機のGNアームズと同時に強襲用コンテナが配備された。これはガンダムおよびGNアームズの輸送を主眼としており、GNコンデンサ内に蓄積された粒子を消費することなく、機体を作戦領域に送り届けることを目的としたものである。

通常コンテナよりも全長が延長され積載量が向上。後部にGNアームズをドッキングし、大気圏内外を高速移動する。

GNキャノンやGNミサイルで武装しており、強襲用の名に相応しい火力を発揮する。

■ 内部構造

コンテナ内にはガンダムを1機搭載できるスペースがあり、発進時には機体後部のハッチを跳ね上げる。



MORE INFO!　その他のCB支援機

GNアームズの他にも、CBはガンダムの支援／性能強化を目的とした機動兵器を多数建造している。形状や機能は機体によって大きく異なるが、GNドライヴの代わりにGNコンデンサを内蔵するという基本構造は踏襲されている。

GNアーチャーは単独でMSに変形する機能を有し、戦況に応じて形態を使い分ける。これは他の支援機には見られない特徴である。

■GNセファー

遠隔誘導兵器「GNプロトビット」を搭載。ラジエルと合体してセファーラジエルとなる。

■GNアーチャー

アリオスと合体してアーチャーアリオスとなり、ブースター兼武器コンテナの役割を担う。

■オーライザー

ダブルオーと合体してダブルオーライザーとなり、トランザムモードの管制制御を担当する。

■ザンライザー

GNバスターソードⅢを中心とした、追加装備である「ザンユニット」とオーライザーが合体した形態。

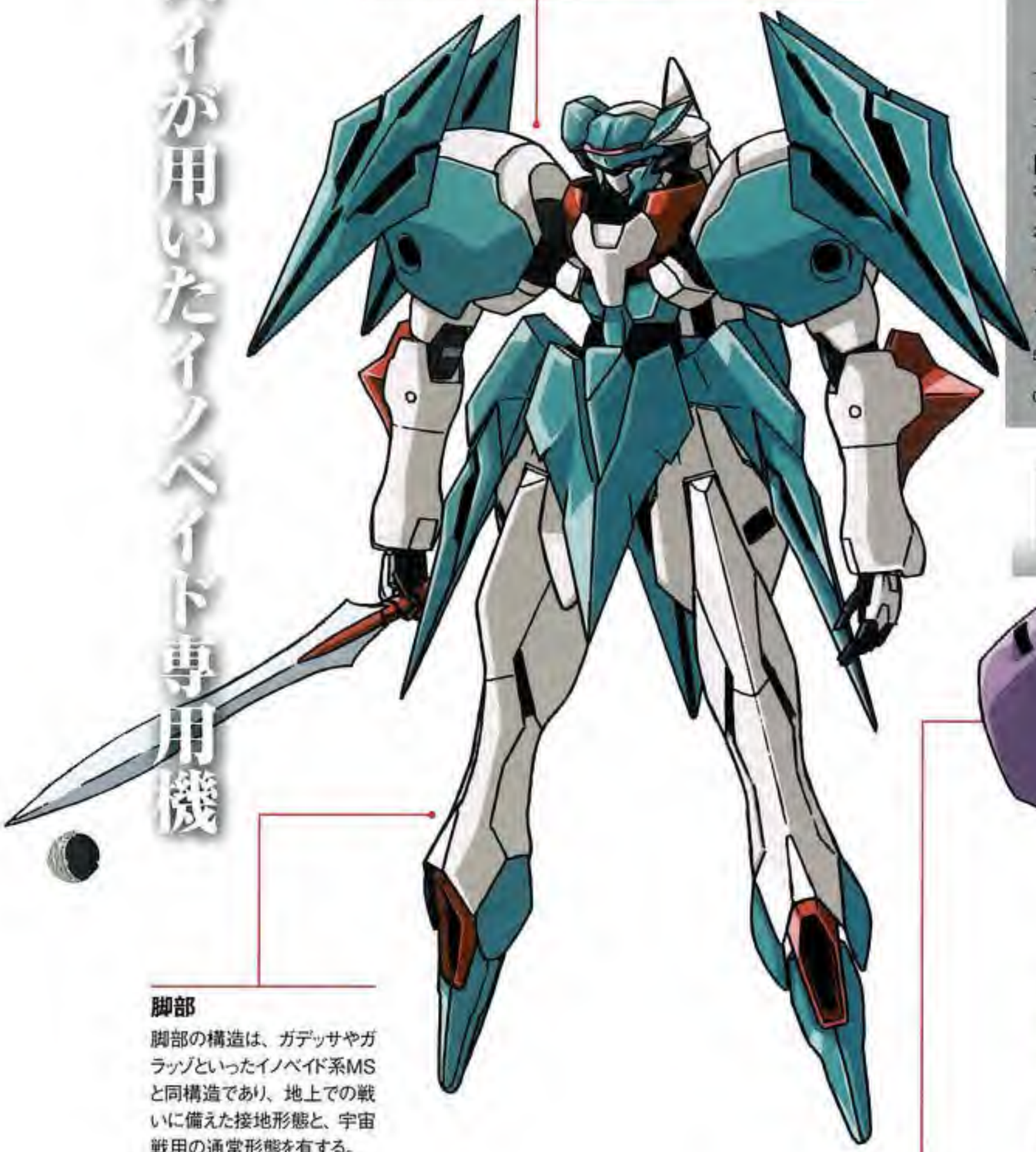
©創通・サンライズ・MBS

GNZ-007

ガッデス
GADDESS

スパイが用いたイノベイド専用機

肩部
両肩装甲上には、無線誘導式のビーム兵器GNビームサーベルファングを設置。本機の主武装として使われた。



脚部
脚部の構造は、ガデッサやガラッゾといったイノベイド系MSと同構造であり、地上での戦いに備えた接地形態と、宇宙戦用の通常形態を有する。

両機はリボンズ・アルマークをリーダーとするイノベイド勢力の機体として、戦乱後期に投入。これにより、ソレスタルビーイング（CB）を一気に壊滅させようとした。

■ SPEC -GNZ-007 GADDESS-

全高	—— （頭頂高 通常形態 24.8m／接地形態 21.4m）
重量	61.3t
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	——
武装	GNヒートサーベル／GNビームサーベルファング／GNバルカン／GNビームサーベル／GNカッター
所属	アロウズ
搭乗者	アニュー・リターナー

■ SPEC -GNZ-004 GAGA-

全高	——（頭頂高 18.1m）
重量	26.4t
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	——
武装	GNバルカン×2
所属	イノベイド勢力
搭乗者	イノベイド（量産タイプ）

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

GNZ-007 GADDESS
LIGHT BLUE　WHITE　RED

GNZ-004 GAGA
PURPLE　PINK　DARK GRAY

GNZ-004

ガガ
GAGA

unknown

質量弾として機能した突撃兵器

頭部
イノベイド系MSの共通機構であるラインセンサーが「目」となる。形状は特殊であるが、センサー類を装備するのみで構造はシンプルであった。

捕獲用アーム
突攻兵器であるが、敵機捕獲用の腕部を備えている。3基のツメで敵機を捕獲し、そのまま自爆することで敵機に確実なダメージを与えた。

相反する性能を有したGNZシリーズの2機

量子演算処理システム「ヴェーダ」とリンクしたイノベイドによって設計・開発が進められた専用機「GNZ」シリーズ。砲撃戦仕様のガデッサ、格闘戦仕様のガラッゾなど、タイプの異なる戦闘用MSが投入されたあと、より用途を限定した特殊MSとして開発されたのが、ガッデスとガガである。

ガッデスは、プトレマイオス2にスパイとして潜入したイノベイド、アニュー・リターナーが運用した機体である。ガッデス本体も、アニューの運用に合わせて潜入・偵察機としての機能を最優先した構造であり、機動性と生存性に長けていた。一方のガガは、疑似GNドライヴ［T］を搭載し、トランザムモードへの移行も可能なことからGNZシリーズにカテゴライズされているが、質量弾として敵拠点や敵艦に突撃する役割に特化していた。パイロットにも「使い捨て」のイノベイドが使われるなど、突攻兵器として開発・量産されたのである。

同じGNZシリーズに属しながら、コンセプトは相反するものであったガッデスとガガ。その開発にはイノベイドの優れた技術力が感じられるものの、イノベイド勢力に勝利を与えるまでには至らなかったのも事実である。

関連ファイル

GNZ-003 ガデッサ／GNZ-005 ガラッゾ	00-01-48
GNMA-Y0001 エンプラス	00-01-50
GNMA-0001V レグナント	00-01-51
CB-0000G/C リボーンズガンダム／リボーンズキャノン	00-01-52
アニュー・リターナー	00-02-21
イノベイド用機動兵器	00-03-25

FILE PREVIEW
00-03-25　イノベイド用機動兵器

イノベイド用に開発されたMS／MA群で、「ヴェーダ」とのリンクを持ち、脳量子波によるコミュニケーションが可能なパイロットに最適化されている。

ガッデスの構造・装備　生存性を支える戦闘力

ガッデスは、ガデッサ／ガラッゾと同構造であり、武装にも共通項が見られる。だが、戦闘型として開発されたガデッサ／ガラッゾと比べると、潜入・偵察用途で開発された本機は、敵機の接近を防ぐ無線誘導式兵器・GNビームサーベルファングなど、本格的な戦闘を回避するために攻撃力が確保されていた。

プトレマイオス2から離脱したアニューが運用。アニュー自身も戦闘型ではなかったため、戦闘能力はガデッサらに劣る。

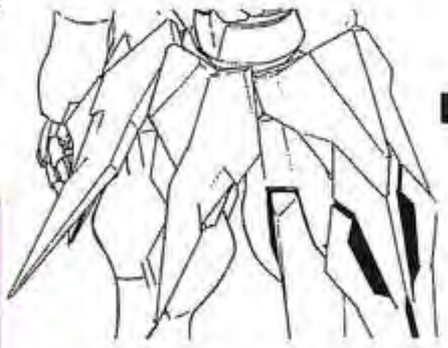
ケルディムガンダムと互角の戦いを繰り広げたが、最終的に機体はケルディムとダブルオーガンダムの攻撃で大破。アニューも宇宙に散った。

▶脚部

ブルーとホワイトを中心としたカラーリングのガラッゾ。基本構造は他のGNZシリーズと同様であり、巡航用ブースターの設置も可能であった。

■ 頭部

ガンダムの影響を感じさせるデュアルアイのほか、ラインセンサーをその上部に有する。これにより高い情報収集力を獲得した。



■ フロントスカート

腰部アーマーは、独立して可動するなど、固定式のアーマーを採用していたガデッサ／ガラッゾと比べても自由度が高い。本機の生存性を高めるために導入されたものと思われる。

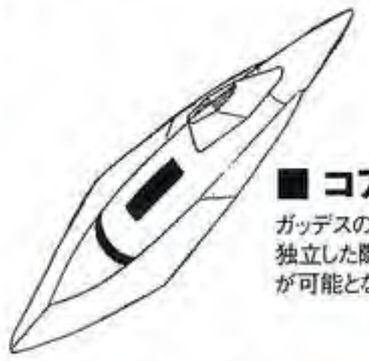
■ GNビームサーベルファング

ガッデスの主武装となる無線誘導式兵器。肩部に4基、腰部に3基の合計7基設置されている。GN粒子をサーベル状に展開し、敵機を翻弄した。

ビームを射出した状態。ファングの制御には、コントロールアンテナとしても機能するGNヒートサーベルが使われていた。

■ ボディパーツ

後方から見たガッデス。本機の出力を支える疑似GNドライヴは、機体本体ではなく、脱出機構ともなるコアファイターの先端に設置されていた。



■ コアファイター

ガッデスのコアファイター本体。機体から分離／独立した際は、ウイングが展開し、単独での飛行が可能となっていた。

■ GNヒートサーベル

ブレード部から発する高熱で敵装甲を焼き切る実体剣。GNビームサーベルファングと連携した兵器である。

■ GNバルカン

マニピュレーターの甲の側に取り付けられた牽制砲。ガッデス／ガラッゾと共通の兵器である。掌にはGN粒子の供給パーツを備える。

■ GNカッター

肘関節の外側に設置された実体刃。肉弾戦用に装備されたもので、敵機装甲を切り裂くほど鋭利である。

ガガの構造・装備　突攻を定められた簡素な装備

MSやMAとも異なる簡素なフォルムや、GNバルカン以外武装を持たない割り切った装備群など、ガガは突攻という役割に特化していた。疑似GNドライヴの大出力を活かしたトランザムモードだけは他のGNZシリーズ同様に搭載されており、敵拠点や艦隊に突撃する際はトランザムモードへ速やかに移行。高速で敵拠点へ突撃し、確実にダメージを与える能力を獲得していた。

ガガと共に、パイロットとなるイノベイドも大量に生産された。その外見はブリング・スタビティと同一のものであった。

大きく突き出した肩部には、GNコンデンサーが内蔵されていたと見られる。突撃に特化しているため、GNドライヴは胴体部に内蔵される形で設置されていた。上図は敵機を捕獲するアーム。

■ 頭部

頭頂部前面が鋭く尖っているのが特徴。デュアルアイはなく、ラインセンサーのみとなっている。

■ GNバルカン

胸部中央のGNドライヴを挟み込むように、唯一の武装であるGNバルカンが設置された。牽制用で、敵艦隊や拠点へ突撃するための補助的な兵器でしかなかった。

■ GNバーニア

ピンクで示した部分が、本機の機動性を支えるGNバーニア。メインバーニアは肩部装甲内に内蔵されており、圧倒的な加速力を生み出す。

■ 胸部/GNドライヴ

自爆時には、背部と胸部のカバーがスライドしてフライホイールが展開され、臨界状態となったGNドライヴが爆発に至る。

▲ブースター

■ 巡航用ブースター

ガデッサ／ガラッゾにも接続できる巡航用のブースター装置。サブGNバーニアの間に設置される。ガガではほぼ標準装備として取り付けられた。

巡航用ブースターを接続したままトランザムモードに移行し、残像が見えるほどの超高速で敵拠点などに突撃していった。

©創通・サンライズ・MBS

中距離支援仕様のザクⅡバリエーション

MS-06K

ザク・キャノン
ZAKU CANNON

ZEON

■ SPEC

全高	——（頭頂高 17.7m）
重量	59.1t
ジェネレーター出力	976kW
スラスター推力	41,000kg
装甲材質	超硬スチール合金
武装	180mmキャノン砲／ビッグガン／2連装スモーク・ディスチャージャー／シールド
所属	ジオン公国軍
搭乗者	イアン・グレーデン 他

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

頭部
モノアイ走査レールは、360度周回式となった。鶏冠状の頭頂部構造物には、前部にサブ・カメラ、後部に後方監視カメラを搭載する。ロッド状のアンテナは、短距離通信アンテナである。

胴体
ランドセルは、180mmキャノン砲搭載のキャノン砲パックとされた。胴体部も改修され、動力パイプの基部となる動力中継ユニットを鳩尾部に移動。この図では判別できないが、乗降用ハッチは右胸部に移されている。

腕部
基本構造はザクⅡJ型を継承したが、装甲形状を中心にマイナーチェンジが行われた。右肩シールドの大型化は、キャノン砲の搭載に伴う右側の視界悪化をフォローするための措置と思われる。

脚部
大腿部後部にメンテナンハッチ、脹脛部に補助推進システムを備える。特殊仕様機として、補助推進システムをグフ用に、ランドセルをザクⅡJ型用に換装したモデルもあり、標準兵装状態での機動性テストで良好な結果を残した。

ガンキャノンの影響を受けた中距離支援MS

MS-06K ザク・キャノンは陸戦型の中距離支援用MSとして完成した、MS-06 ザクⅡの派生機である。ランドセルに180mmキャノン砲1門を搭載し、対MS戦における砲支援や対空攻撃を中心に活躍したMSだった。

しかし、ザク・キャノンの原案は中距離支援用ではなく、MS-06J ザクⅡJ型に対空砲をオプション装備するものだった。MSに随伴可能な対空兵器の必要性から開発がスタートしたようだが、重量バランスの問題、実際的なニーズの未確定などから、計画は凍結された。

この状況を変えたのが、地球連邦軍の中距離支援用MS、RX-77 ガンキャノンである。ガンキャノンの情報を得たジオン公国軍の技術陣は、対空砲装備型ザクⅡの開発を再開（U.C.0079.09下旬以降と見られる）。キャノン砲一体型ランドセルを装備する、対MS戦闘支援機として完成させた。試作段階でMS-06J-12の型式番号を与えられた中距離支援用のザクⅡは、型式番号をMS-06Kに改められ、ザク・キャノンとして制式化されたのだった。

なお、開発拠点はキャリフォルニア・ベースで、生産数は9機とされた。ただし、各地の運用事例や鹵獲機の数から判断して、実際の生産数は通説以上と思われる。

関連ファイル

MS-06J ザクⅡJ型	IGL2-01-07
MS-06D ザク・デザートタイプ	AGS-01-13
ジオン公国軍のMS開発	FG-03-16
MSの分類	FG-03-38

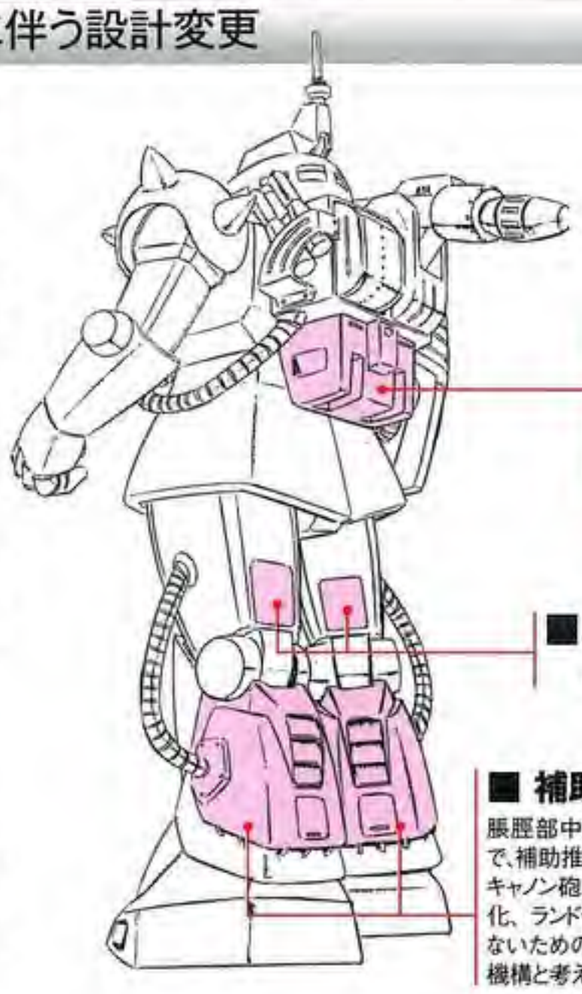
FILE PREVIEW
FG-03-38 MSの分類

MSは仕様や運用環境によってさまざまなカテゴリに分類される。これらは一年戦争時にはすでに構築されており、その後のMS開発の中で新たなカテゴリが生み出された。

機体構造　支援機への改修に伴う設計変更

ザクⅡJ型は陸戦型の汎用機であるため、中距離支援用のザク・キャノンへの改修に際して、全体的な設計変更が加えられている。頭部や胴体、腕部をはじめ機体の全部位がザクⅡJ型と異なるのは、このためだ。

ランドセル以外で顕著な変更が見られるのが頭部である。頭頂部補助カメラや短距離通信アンテナは、長射程の180mmキャノン砲に対応した火器管制機能の拡充、支援MSに重要な僚機との通信手段確保などを目的として装備されたと思われる。他にも、全周式モノアイ走査レールの採用、動力パイプの内装、開発中の機体の部材を流用した口吻部の導入などが行われた結果、後発のMS-14C ゲルググ・キャノンに近い構造となった。胴体は、胸部大型インテークの設置、照準システムのリンケージに対応した胸部装甲および動力パイプ接続位置の変更などが認められる。



■ メインベンチレーター

ランドセル下部に、オプション接続用ラッチを兼ねるメインベンチレーター（主換気装置）を備える。これと胸部増設の大口径インテークから、空冷／換気機能を重視した本機の設計が推測できる。

■ メンテナンスハッチ

■ 補助推進システム

脹脛部中央とその下方をなぞる形で、補助推進システムが配置された。キャノン砲パック搭載による大重量化、ランドセルにスラスターを装備しないための低機動性を補うための機構と考えられる。

■ ラビットタイプ頭部

短距離通信アンテナを2本搭載した頭部。Type V12spのマルチブレード・アンテナと思われる。ラビット・タイプの名は、その形状から付けられた俗称。単装型との性能差は不明。

補助推進システム搭載の脚部はグフの影響。ザク・キャノンは、ザク系だけでなく他系列機の技術も導入されている。

アレキサンドリア級重巡洋艦ハリオに配備された地球連邦軍接収機は、短装式の短距離通信アンテナ。ラビット・タイプは珍しいようだ。

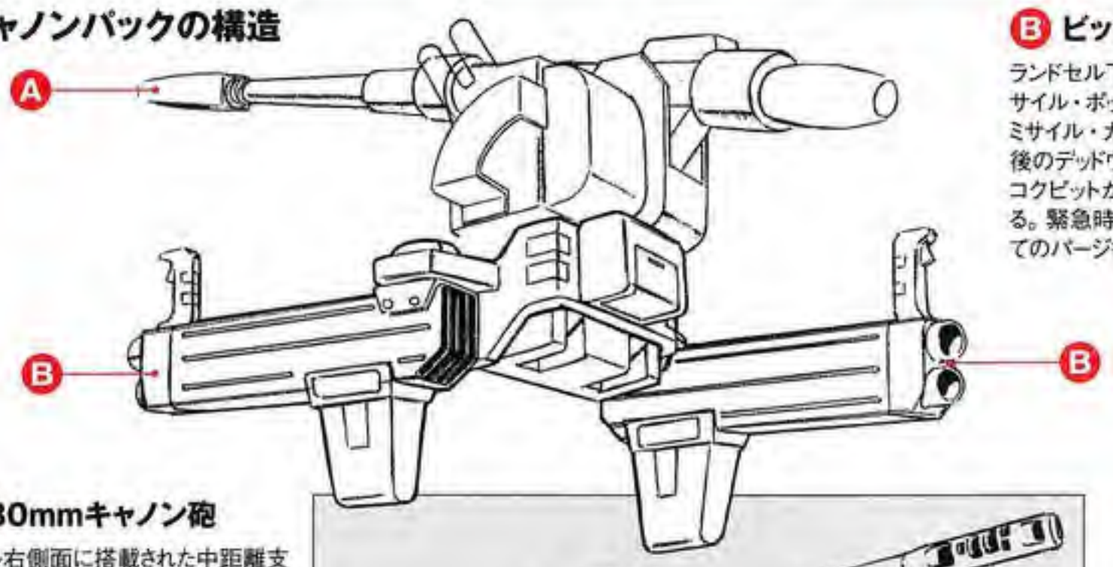
武　装　ランドセルに集中配置された火器

ザク・キャノンの主兵装である180mmキャノン砲はランドセルに搭載されている。これは他の多くの支援用MSと同じだが、本機が特殊なのは補助兵装のビッグガンもランドセルに接続される点だった。つまり、手持ち式を除く全兵装がランドセルに集約されているのだ。この背景には、僚機による弾倉交換を前提とした設計があるようだ（対空砲撃中のザク・キャノンの後方に、交換弾倉を抱えたザクⅠが待機している写真は有名）。なおキャノン砲パックは、ザクⅡJ型用ランドセルに換装可能だった。

ビッグガンは、180mmキャノン砲の想定攻撃距離よりも短いレンジで使用される。連装化されており、高い火力を有する。

U.C.0096のトリントン基地襲撃に参加した機体は、ザク・マシンガンとランドセル外装式パラシュート／減速バーニアを装備。

■ キャノンパックの構造

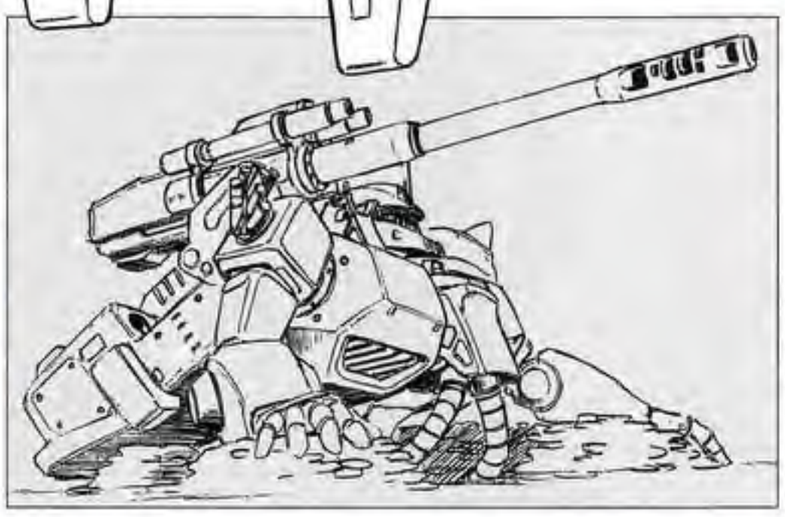


Ⓐ 180mmキャノン砲

ランドセル右側面に搭載された中距離支援火器。最大仰角は90度。対MS用として充分な火力を有するほか、対空攻撃でも威力を発揮。左側面に砲はなく、2連装スモーク・ディスチャージャーを備える。

Ⓑ ビッグガン

ランドセル下部に接続する連装ミサイル・ポッド。オプション・ポッド、ミサイル・ガンとも呼ばれる。使用後のデッドウエイト化を避けるため、コクピットからの操作で切り離せる。緊急時にはストラップを爆砕してのパージも可能だった。



東南アジアで見られたザク・キャノン。キャノン砲、ランドセル共に通常とは別の規格で、現地改修機の可能性もある。シールドを外し、スモーク・ディスチャージャーを搭載していた。

MORE INFO!

ザク・キャノン1号機は、北米中部か西アジア方面でのテスト運用が想定されていた。当初、サンドカラーで塗装されたのはこのためだったが、予定変更後はダークグレー系統の標準迷彩にリペイントされた。一年戦争時の運用例は、北米や東南アジアのものが知られ、ニュータイプと噂されたイアン・グレーデン中尉機、中尉と同じ小隊に所属したアルフレディーノ・ラム少尉機の活躍は特に有名である。ジャブロー降下作戦に、6機が投入されたとの説もある。

一年戦争後、紫で塗装された接収／鹵獲機を地球連邦軍が運用。グリプス戦役期まで現役だった。U.C.0096には、旧ジオン公国軍残党の機体がトリントン基地襲撃に参加した。

■ イアン・グレーデン中尉機

ザク・キャノンのパイロットとして最も有名なイアン・グレーデン中尉の乗機。中尉は理論家で、先読みの利く人物だった。終戦までに、航空機34機、車輌71輌、MS2機を撃墜した。

グレーデン中尉のパーソナルマーク。中尉機の前腕に描かれた。胸部には蜘蛛の足に似せた文様と「SPIDER」の文字が記されていた。

ザク・キャノンの戦歴

一年戦争時の運用地域は北米（❶）と東南アジア（❷）。欧州（❸）、豪州（❹）、南米（❺）で運用された可能性もある。U.C.0096のトリントン基地襲撃戦でも確認された。

FREEDEN

フリーデン

unknown

アルプス級陸上戦艦

ニュータイプの保護を掲げるバルチャーの陸上艦

関連ファイル

フリーデンII	X-01-17
ティファ・アディール	X-02-02
ジャミル・ニート	X-02-03
フリーデンのクルー①	X-02-06
フリーデンのクルー②	X-02-07
A.W.の艦艇	X-03-15

FILE PREVIEW

X-02-03 ジャミル・ニート

フリーデン艦長。ニュータイプとして第7次宇宙戦争に参加し、コロニー撃墜作戦の引き鉄を引いて能力を失う。その後、ニュータイプ保護のために活動する。

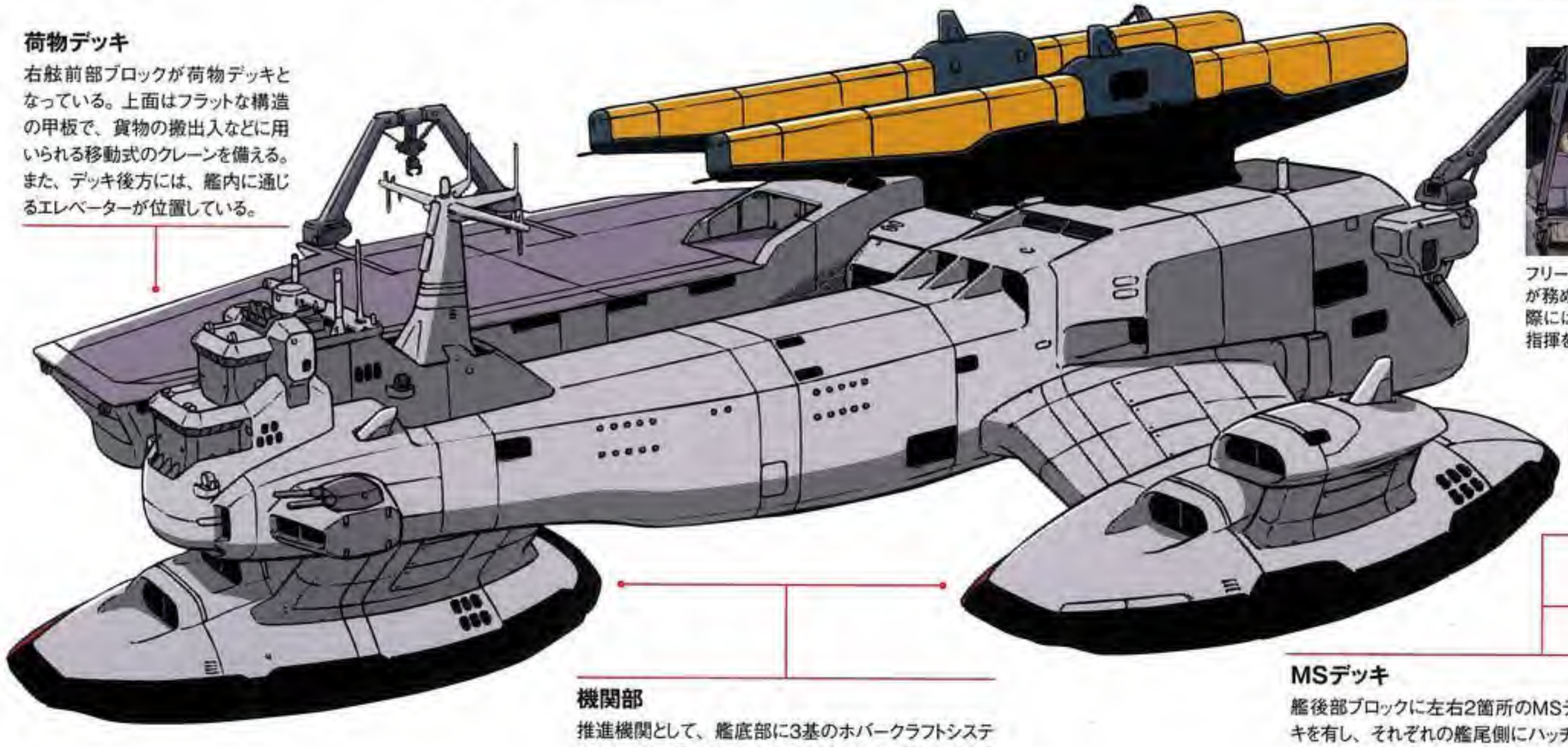
■ SPEC

全長	132m
武装	2連装主砲
所属	フリーデン
搭載MS	GX-9900 ガンダムX／GX-9900-DV ガンダムXディバイダー／GX-9901-DX ガンダムDX／GW-9800 ガンダムエアマスター／GW-9800-B ガンダムエアマスター・バースト／GT-9600 ガンダムレオパルド／GT-9600-D ガンダムレオパルド・デストロイ
艦長	ジャミル・ニート

■ COMPARISON CHART

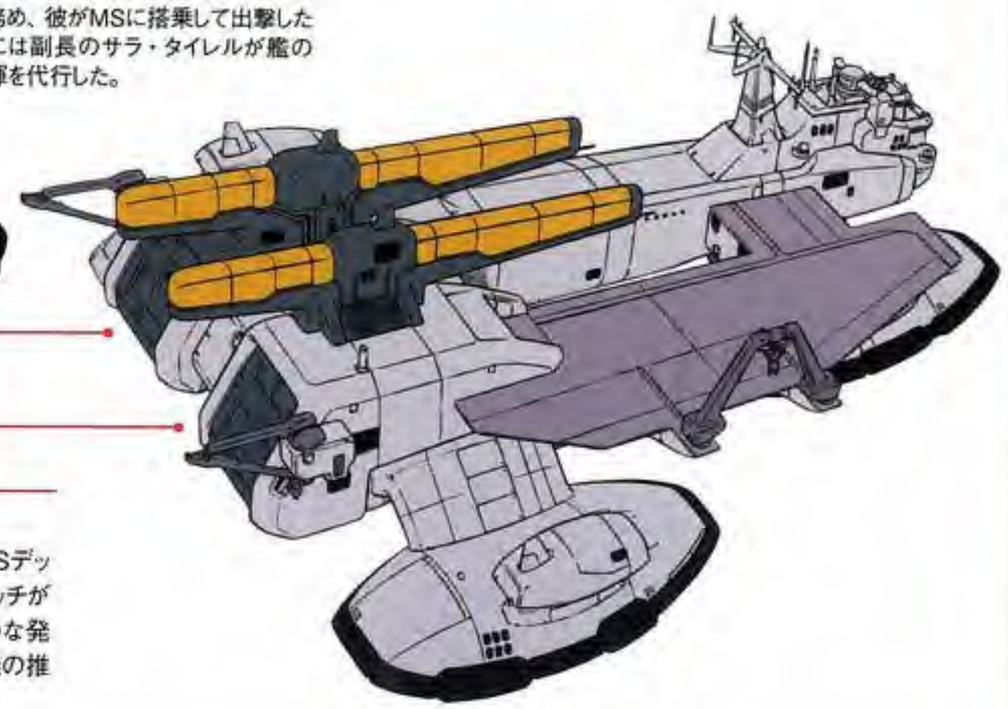
■ COLOR

フリーデンの艦長はジャミル・ニートが務め、彼がMSに搭乗して出撃した際には副長のサラ・タイレルが艦の指揮を代行した。



荷物デッキ
右舷前部ブロックが荷物デッキとなっている。上面はフラットな構造の甲板で、貨物の搬出入などに用いられる移動式のクレーンを備える。また、デッキ後方には、艦内に通じるエレベーターが位置している。

機関部
推進機関として、艦底部に3基のホバークラフトシステムを備える。最大出力は79,000馬力で、最高巡航速度は時速160kmに及ぶ。艦の外側に張り出した構造故に、被弾して走行に支障を来すケースも多かった。



MSデッキ
艦後部ブロックに左右2箇所のMSデッキを有し、それぞれの艦尾側にハッチが設けられている。カタパルトのような発進機構は持たず、搭載MSは自機の推力によって発進を行う。

ジャミル一行の家となった陸上戦艦

A.W.0015、ニュータイプの保護を目的として、第7次宇宙戦争で荒廃した地球を放浪する者たちが存在した——ジャミル・ニートをリーダーとするバルチャーの一団である。彼らは交易と自衛のために大型の陸上戦艦を保有し、時にはMSを運用して妨害者とも戦った。その艦が、このフリーデンである。

フリーデンはアルプス級に分類される陸上戦艦で、ホバークラフトによって地上や水面を走行する性能を有している。さらに、130m超の艦体は巨大なペイロードを誇り、物資の運搬だけでなくMSの整備・改修能力を備えていた。本艦は、ニュータイプを捜索する旅に臨んだジャミルたちの足となっただけでなく、その力を巡る長い戦いにおいて彼らの「家」の役割も果たすこととなった。しかし、度重なる戦闘で損害を被ることも多く、ゾンダーエプタでは政府再建委員会により一時的に拿捕されている。また、新連邦政府の樹立後は南アジアのエスタルドからニュータイプ研究所にかけて転戦、第8宇宙軍基地における新連邦第36方面軍との交戦で、ガロード・ランを宇宙に上げるため移動要塞バンダールII世に特攻して大破したのだった。

艦載機　旅の過程で戦力に加わった4機のガンダム

6機のMSを搭載可能。当初は固有のMS戦力を持たなかったが、ティファ・アディールを巡る戦いの中でGX-9900 ガンダムXを入手し、その後もウィッツ・スー、ロアビィ・ロイのガンダム乗り2名と専属契約を結び、最終的にはGX-9901-DX ガンダムDXを含めて4機のガンダムを保有した。

■ GX-9900 ガンダムX　■ GX-9901-DX ガンダムDX　■ GW-9800 ガンダムエアマスター　■ GT-9600 ガンダムレオパルド

艦体構造／武装　積載能力に優れた左右非対称の艦体構造と、最低限の武装

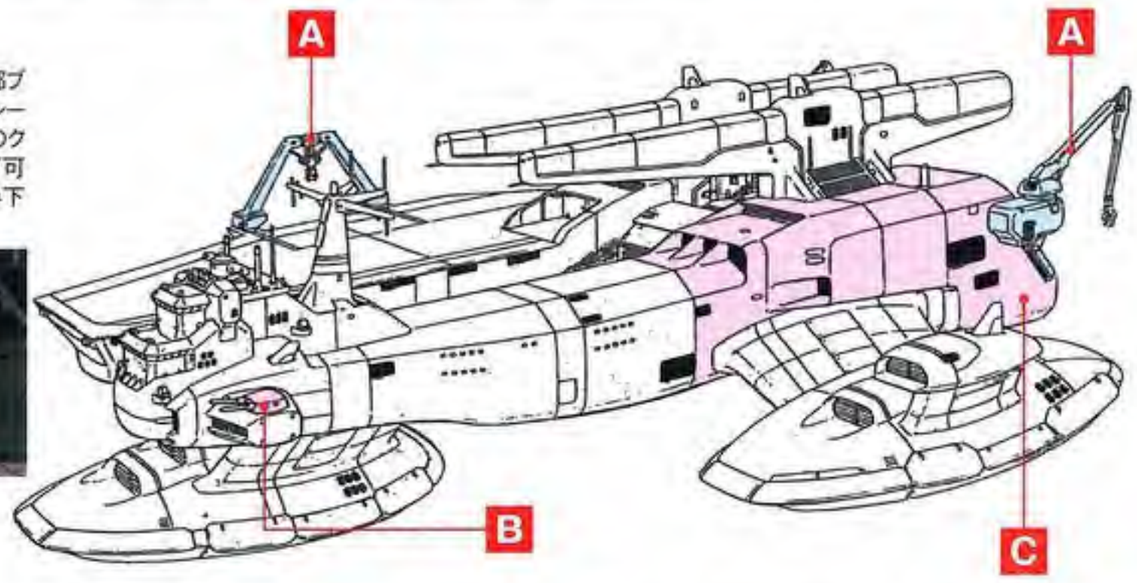
フリーデンは、3つのブロックを繋ぎ合わせたような左右非対称の艦体構造を特徴とする。前部左舷が艦橋を配した居住区ブロック、前部右舷が貨物用デッキで、後部が格納庫を備えるMSデッキとなっている。艦体の大半を格納スペースに割いていることから積載能力は高く、平時はMSなどの大型物資の交易にも役立っていた。一方、武装は左舷の2連装主砲1基のみで、戦闘艦としての火力は高くない。これは、ジャミルが略奪行為を目的とせず、過度の武装化に消極的だったことが理由のひとつと考えられる。

全長130mを超える大型の陸上艦で全高は47m、最大幅は78mに及ぶ。3本の脚にあたる機関部で艦体を支える構造が特徴である。

ホバークラフトにより海上を走行する能力を有している。上陸せずに1ヶ月近くも海上移動を続けたこともあった。

A クレーン

荷物デッキの上面甲板と後部ブロックの両舷に、計3基のクレーンを備えている。荷物デッキのクレーンは横方向にスライドが可能で、側舷からの貨物の積み下ろしなどに用いられた。

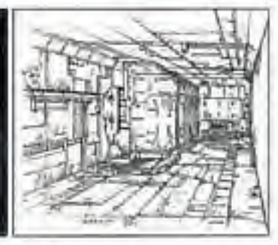


B 2連装主砲

唯一の武装である実体弾式の2連装主砲は、艦首左舷に配されている。配置上、射界は限られており、右舷方向はMSでカバーするケースが多かった。

C 格納庫

MSデッキの格納庫には3基の移動式MS用ベッドが設けられている。右図は右舷側格納庫を艦尾方向から見たもので、壁面にはキャットウォークがある。



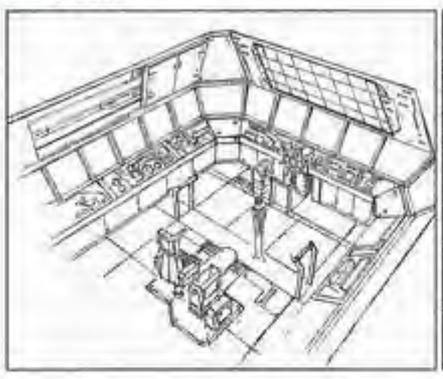
ブリッジ　バルチャーとしての旅を支えた艦の中枢

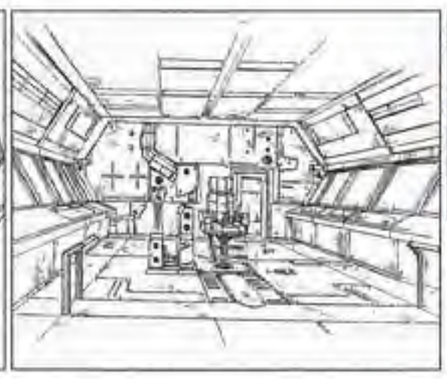
艦橋は左舷ブロックの艦首上部に位置し、上下2段の構造を有する。艦橋上部にはマルチ・ディスチャージャーを備え、バルチャーサイン（バルチャー間の意思疎通に用いられる信号）の発射機構として用いられた。また、一般的な通信機能のほか、ブリッジからの発光信号によって外部との連絡を取るケースもあった。なお、艦は通常、艦長のジャミルと副長兼総合オペレーターのサラ、操舵士のシンゴ・モリ、通信士のトニヤ・マームという4名のブリッジクルーによって運行されている。

ブリッジ前面上部には大型モニターが配されており、外部カメラや通信映像が表示される。モニターの操作は艦長席からも可能。

高所に配されたブリッジには大型の窓が設けられており、視界は良い。逆に、捜索や哨戒を行う際には肉眼に頼る必要もあった。

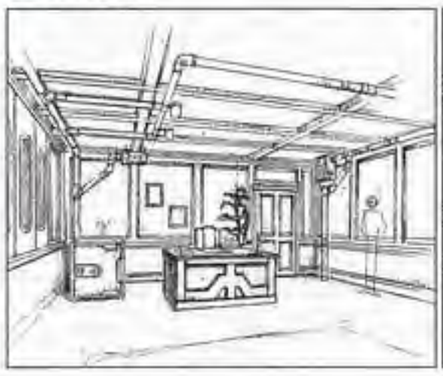
■ 内部

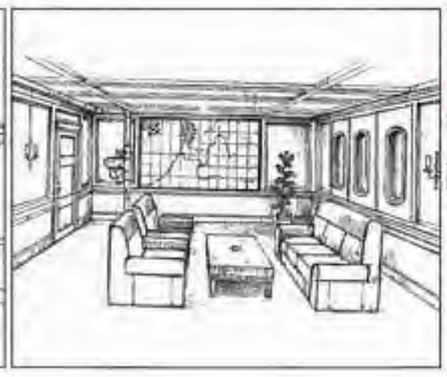




左はブリッジの俯瞰図で、右は艦前方から見た内部。中央が艦長席で、前方正面に操舵輪、両舷にオペレーター席が位置する。艦長席以外はパイプ状の簡易椅子となっている。

■ 艦長室



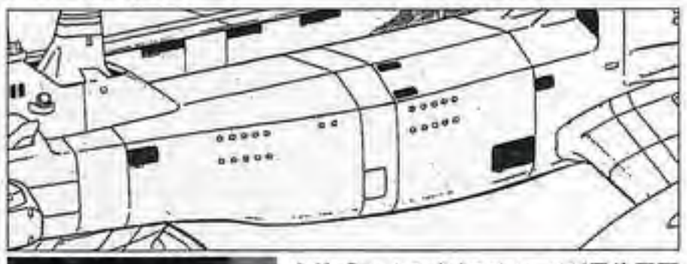


ジャミルが使った艦長室には木製の机やソファーが置かれ、艦内でも特に高級な造りだった。壁面にはモニターが配されており、通常は地図が映されている。

居住区　乗組員たちの生活基盤となった居住施設

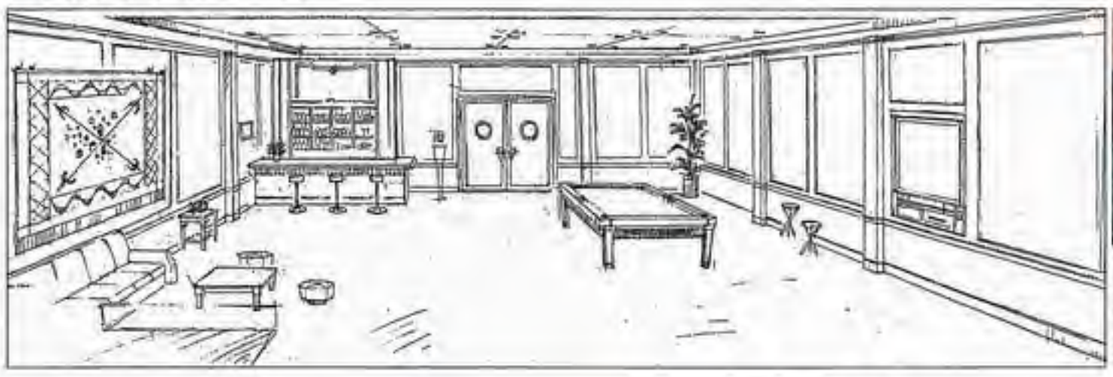
フリーデンの艦内居住区には、乗組員の私室や食堂、医務室といった様々な施設が設けられていた。フリーデンには45名の乗組員が暮らし、生活物資の補給は市街に立ち寄った際や、他のバルチャーとの接触時に行っていた。もとより、前大戦の被害で人々の生活圏が極端に減っていた状況においては、艦を居住施設とする必要性があった。バルチャーとして各地を渡り歩いたジャミルたちにとって、フリーデンは生活の場でもあったのである。

■ 左舷居住区



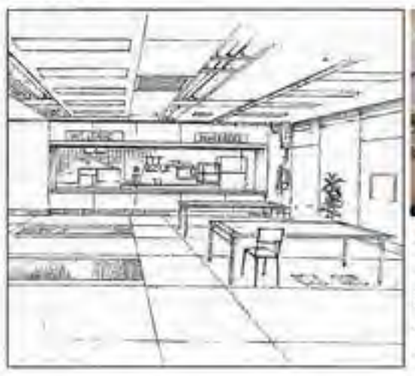
左舷ブロックの多くのスペースが居住区画に割かれており、外壁には各部屋の窓が見える。医務室もこの区画に位置し、オルバ・フロストに襲撃された際（左）には外壁を破壊されている。

■ リラックスルーム



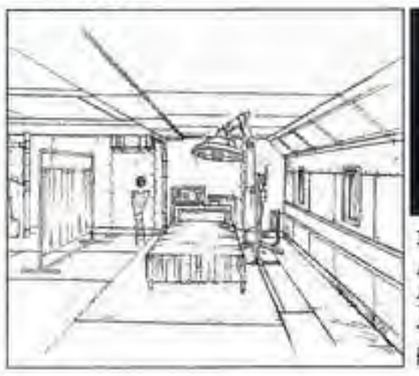
専属契約を結んだロアビィが私財を投じて艦内に造った娯楽施設。ビリヤード台やバーカウンターが置かれていた。

■ 食堂



ビュッフェ方式で、図奥のカウンターからセルフサービスで料理を取り分ける。食事を取る場所は各人の自由で、テイクアウトすることもできた。

■ 医務室



専属医のテクス・ファーゼンバーグが預かる艦内医務室。外科手術の設備も有するが、その際には振動を抑えるため艦を停止させる必要がある。

ロックオン・ストラトス
(ライル・ディランディ)
Lockon Stratos (Lyle Dylandy)

PROFILE

年齢	29歳
所属	カタロン→ソレスタルビーイング
階級	——
出身	北アイルランド共和国
技能	MSの操縦

兄の遺志を継いだ新たな〝ロックオン〟

西暦2312年のCBに合流した新たなガンダムマイスター

西暦2312年、刹那・F・セイエイが合流し、新生ソレスタルビーイング(CB)の拠点として活動を開始したプトレマイオス2。彼らは艦の体制を整えるべく、前大戦で死亡したニール・ディランディに代わるガンダムマイスターの存在を欲していた。そこで白羽の矢が立ったのが、ニールの双子の弟ライル・ディランディである。

ライルは、両親などが死亡したKPSAのテロには巻き込まれず、AEU領内で暮らしていた。会社員として働く傍ら、反政府組織「カタロン」に参加しており、「ジーン1」の名で諜報活動も行っていたのである。2312年、刹那からスカウトを受けたライルは、所在が不明であった兄ニールがCBに参加していたこと、そして彼が4年前の戦乱で死亡したことを初めて知り、愕然とする。彼は、兄の後釜となることに戸惑いを感じながらも、カタロンにCBの情報を持ち込むチャンスと捉え、スカウトに応じたのだった。

兄ニールと顔は瓜二つであったが、性格はかなり異なっている。また、昔から優秀であった兄と比べられることに嫌気が差していた。

カタロンのスパイとしてプトレマイオス2に乗り込んだライルであったが、世界の変革を目指すCBの姿勢に感化されていくのだった。

CHARACTER ―― その人格

プトレマイオスでも兄貴分としてクルーをまとめた兄ニールと比べ、ライルは皮肉屋で、軽い言動に出るのが特徴であった。だが、アロウズに対して苛立ちを見せる様などは、かつてニールが見せた強い正義感と通じるものがあった。

ニールの面影を感じて戸惑うフェルト・グレイスに対し、突然キスを迫るなど別人であることを突飛な行動で示そうとした。

RELATIONS

MAIN MS

GN-006
ケルディムガンダム

ガンダムデュナメスの発展型で、長距離狙撃に長けたMS。攻防どちらにも使用できるGNシールドビットの搭載など、武装面での大幅な強化が図られている。

関連ファイル

GN-002 ガンダムデュナメス	00-01-04
GN-006 ケルディムガンダム	00-01-09
GN-010 ガンダムサバーニャ	00-01-16
ロックオン・ストラトス(ニール・ディランディ)	00-02-02
アニュー・リターナー	00-02-21
アリー・アル・サーシェス	00-02-34

FILE PREVIEW

00-02-02 ロックオン・ストラトス(ニール・ディランディ)

ライルの双子の兄で、西暦2307年の戦いにCBのガンダムマイスターとして参加。ムードメーカーとしてクルーを引っ張るが、国連軍との最終決戦で宇宙に散った。

俺たちは過去じゃなく未来のために戦うんだ

プトレマイオス2に乗艦したライルは、兄のニールが、クルーたちの間で大きな存在であったことを知る。双子であるライルにとって、それは兄と比べられることを意味しており、当初はそれに苛立つ節もあった。だが、アロウズとの戦乱が激しくなる中、己の力でしか状況を変えることができないと、慣れないMS——しかもガンダム——の操縦を懸命にこなし、足手まといにならぬように奮闘したのである。そんな彼の努力は、刹那をはじめクルーたちにも認められ、"ライル"として受け入れられていった。ライルも、もはやカタロンのスパイとしてではなく、プトレマイオス2の一員として活動するようになったのである。

だが、必死にアロウズの打倒を目指していたライルにも、大きな転機が訪れる。それは途中からプトレマイオス2に乗艦したクルー、アニュー・リターナーとの出会いであった。アニューに惹かれ、恋仲となったライルだが、彼女が敵対勢力であるイノベイドからの刺客であることに気づく。やがてアニューがその正体を現したため、敵として交戦することになる。戦闘を中止するよう説得を続けたライルだったがついに実らず、アニューは宇宙に散った。この別れを機に、ライルは世界の変革を自らの手で成し遂げる決意を固める。そしてイノベイド勢力との最終決戦では、兄を殺害したアリー・アル・サーシェスとの一騎討ちに勝利。兄が果たせなかった変革への確かな一歩をようやく踏み出したのである。

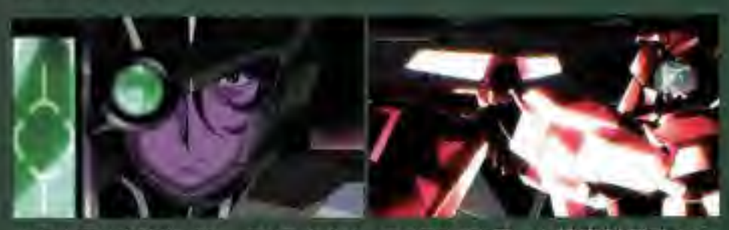
Ⓐ緑を基調としたCBの制服に身を包んだライル。スナイパーとして重要な手を保護するためか、グローブをはめていた。
Ⓑライル専用に作られたパイロットスーツも、緑を基調としている。気密性に優れ、多少ならば宇宙空間での行動を可能としている。
Ⓒフルフェイスヘルメットに包まれたライル。ヘルメットは頭部を衝撃からカバーしつつも、精密な射撃の妨げにならぬものとなっていた。
Ⓓその容貌は兄ニールとほぼ同じで、スメラギやフェルトを筆頭に、ニールを知るクルー全員から驚かれた。その反応を見たライルは戸惑うしかなかった。

足跡 サーシェスへの復讐

刹那によって知らされた兄ニールの死。さらにライルは、ガンダムマイスターのひとりティエリア・アーデから、ニールが家族を殺害された私怨からサーシェスを深追いし、命を落としてしまったことを伝えられる。それを聞いた直後のライルは「兄さんらしい」と極めて冷静な態度を見せていたが、家族の命を奪った存在であるサーシェスへの復讐心は、命の奪い合いを楽しむ彼の戦い振りに触れるにつれ、徐々に大きくなっていった。そしてその復讐のチャンスは、イノベイド勢力との最終決戦で訪れる。ケルディムガンダムで出撃したライルは、狡猾で獰猛な戦闘スタイルを持つサーシェスと互角に渡り合い、アルケーガンダムを破壊。さらに機体から脱出したサーシェスを、有無も言わさず撃ち抜いたのである。兄ニールが乗り移ったかのようなライルの執念と怒りがサーシェスとの因縁を断ち切ったのだった。

能力 兄に匹敵する射撃センス

スナイパーとして多大な戦果を挙げた兄ニールの血を引き継ぐからか、ライルも相当な射撃センスの持ち主であった。本人は兄の存在を大きな壁と感じていたようだが、西暦2312年、射撃戦に特化したMS・ケルディムガンダムのパイロットとして見せた活躍は、ニールの不在を充分に補っていたと言えるだろう。その陰には、兄と比べられたくないというライルの懸命な努力があったのである。


メメントモリ攻略戦では、GNスナイパーライフルIIを用いた精密射撃でメメントモリの砲口を撃ち抜いたのである。

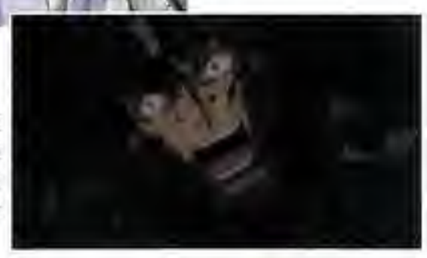
刹那にスカウトされたニールは、カタロンとCBの連携を睨んでプトレマイオス2に合流を決意。アレルヤ・ハプティズム奪還作戦が初陣となった。

CBの秘密基地から合流したアニューに興味を抱いたライル。恋仲となるにはそう時間はかからなかった。

カタロンでは「ジーン1」というコードネームで活動。カタロンの基地がアロウズに襲撃された際は、怒りに震えている。

アニューにとどめを刺した刹那に、ライルは怒りを隠し切れず銃を向けた。だが、引き鉄を引くことはできなかった。

刹那がかつてKPSAに所属していたことを本人から知らされるが、「過ぎたことだ」として、彼を責める様子は窺えなかった。


アルケーガンダムを撃破されてもなお、獰猛な戦い振りを見せるサーシェスをライルは冷静に仕留めた。

MORE INFO! アニューへの愛

ライルは、アニューを真剣に愛していた。だからこそ、アニューが脳量子波の干渉を受けている様子を見かけたときも、それをクルーたちには伝えなかったのである。彼女がプトレマイオス2に牙を向いてからも、ライルの気持ちが揺らぐことはなかった。だが、脳量子波によってリボンズのコントロール下にある彼女が、イノベイド勢力から離脱するのは不可能だった。それでも最後まで、身が滅ぶのを覚悟で説得を続けたライル。この一連の悲劇の中で彼は、種が異なってもいつかはわかり合えることを理解し、それは西暦2314年のELSとの"対話"でも活かされたのである。

アニューが命を失う直前、彼女に寄り添ったライル。一瞬ではあったがアニューは脳量子波から解き放たれ、その絆を確かめ合った。

アニュー・リターナー

リボンズが、ダブルオーガンダムとツインドライヴシステムを奪取するため、プトレマイオス2に送り込んだイノベイド。アニューは潜入任務をスムーズにするため、女性型とされた。

アニュー・リターナー

Anew Returner

PROFILE

年齢	――
所属	イノベイド勢力
階級	――
出身	――
技能	艦船操縦、MS操縦、脳量子波による感応

unknown

種族を超えて
愛を育んだ
イノベイド

CBに送り込まれた自覚なきイノベイド

イノベイド――量子演算処理システム「ヴェーダ」が用いる人間型端末で、本来は人間の進化を促すために生み出された存在である。しかし、リボンズ・アルマークの台頭により彼らはイノベイターを自称、人類支配を画策した。ヴェーダを手中に収めたリボンズであったが、ダブルオーガンダムのツインドライヴシステムは未知のものであり、奪取を狙う。そのためにソレスタルビーイング（CB）へと送り込まれたイノベイドがアニュー・リターナーであった。

アニューは自らがイノベイドという自覚を持たず、プトレマイオス2の仲間としてアロウズと戦い、絆を強めていく。その最中、ロックオン・ストラトス（ライル・ディランディ）と恋仲になったアニューにとって、ライルへの愛に嘘はなかった。イノベイドへの覚醒後も彼女の愛に変わりはなく、人間とイノベイドがわかり合えることを示した。しかし、その愛が悲劇を呼ぶことになってしまう。

敵がトレミーの位置を正確に知るため、不審な行動を取るライルを疑うアニュー。この時、ライルと本名で呼び合う仲となり、次第にお互い惹かれ合う。

「愛してるよ」出撃前のライルから突然に愛を伝えられたアニュー。ミレイナ・ヴァスティをはじめブリッジクルーからの冷やかしや祝福に照れる一面を見せた。

CHARACTER ―― その人格

優秀な能力を誇示することなく振る舞い、社交的な女性であった。しかしイノベイドであるからか、恋愛面には疎いようで、ライルの好意をそうと察することができず、「君は聡明で博識だがちょっとニブイな」と彼から言われていた。

褒めちぎるイアン・ヴァスティの紹介を受けたアニューは、照れながらも初めて会うプトレマイオス2の面々に挨拶する。

RELATIONS

MAIN MECHANIC / MAIN MS

プトレマイオス2

プトレマイオスの後継艦。大気圏内外のほか水中潜航も可能な全領域対応艦となった。GNフィールドを利用した大気圏突破やトランザムの併用による大気圏の離脱も実現。さらに武装も施されている。

GNZ-007 ガッデス

GNZシリーズに並ぶイノベイド専用MS。アニュー用に調整され、GNビームサーベルファングを多数装備している。基本的には極力戦闘を避けて離脱することを目的とする。

関連ファイル

プトレマイオス2	00-01-21
GNZ-007 ガッデス／GNZ-004 ガガ	00-01-49
ロックオン・ストラトス（ライル・ディランディ）	00-02-03
リボンズ・アルマーク	00-02-18
リヴァイヴ・リバイバル／ヒリング・ケア	00-02-20
イノベイド	00-03-43

FILE PREVIEW

00-02-03 ロックオン・ストラトス（ライル・ディランディ）

兄ニール・ディランディの跡を継いで、2代目ロックオンとなったガンダムマイスター。本名はライル。アニューの正体を知らぬまま惹かれ合い、恋仲となる。

ねえ、私たち わかり合えてたよね？

メメントモリの破壊ミッションでプトレマイオス2が地上に降下した際、アニューとライルの仲が深まる。プトレマイオス2の位置情報が漏れている件（アニューによるものだが）で、アニューは何者かと交信していたライルに不審を抱く。結局、カタロンの構成員であった彼が応援を頼んでいたと知り、打ち解けたのである。その際にアニューはライルと本名で呼び合う仲となり、自分に気遣いを見せる彼に惹かれていく。

自分がイノベイドとは知らず、アニューは人間のライルを愛する。その感情は人間としてライルと過ごしたときのものであるが、イノベイドに覚醒しても消えるものではなかった。「嘘だと言うのか、俺の想いも、おまえの気持も!!」ライルの叫びをアニューも否定することはできず、最後には自分の中にあるライルへの愛を確信。人間としてライルの元へ戻ろうとする。しかし彼女の意識はリボンズに奪われ、それを断ち切ることは叶わなかった。死ぬ瞬間にダブルオーライザーのGN粒子に包まれたアニューは、最期にライルとの絆を確かめられたことで笑顔を見せ、死んでいったのである。アニューは人種を超えてわかり合えることを示し、イオリア・シュヘンベルグの掲げる「対話」の可能性を垣間見せたと言えよう。

足跡　自覚なきスパイ

CBの活動再開の際に、リボンズの息が掛かった王留美の紹介で組織に参加したアニュー。ラグランジュ3資源衛星群に隠されたCBの秘密基地で、プトレマイオス2に合流した。以降はトレミーの操舵士としてブリッジクルーの一員となる。その陰では、アニューと同タイプであるリヴァイヴ・リバイバルの脳量子波に呼応し、その都度、本人の知らぬ間にCBの情報をアロウズに流す役目を担う。その目的はダブルオーガンダムの奪取にあった。

トレミーではイノベイド捕獲を計画しており、イノベイド側ではそれを逆に利用したダブルオーガンダムの奪取計画が進む。敢えて捕まったリヴァイヴの脳量子波に呼応し、アニューはついにイノベイドとして覚醒を果たす。しかしダブルオーガンダムの奪取には失敗。破壊工作により機能が麻痺したプトレマイオス2を叩くため、アニューらはMSで出撃する。ライルと交戦したアニューは彼への愛が真実だと悟るが、リボンズに意識を乗っ取られてしまいライルを殺そうとする。しかし刹那・F・セイエイに討たれ、ライルと想いを確かめ合って散っていく。

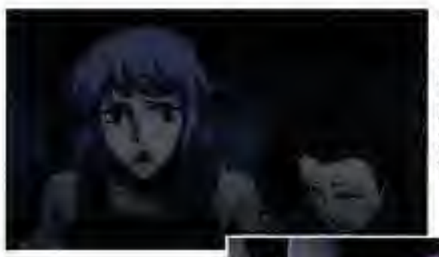
能力　イノベイドとしての優れた能力

宇宙物理学、MS工学、再生治療の権威であり、操船技術や料理にも長ける。それは情報収集タイプの人型端末としてそのように造られたアニューにとって、当然の能力であった。その能力がイアンに買われ、プトレマイオス2の乗員として推薦を受ける。また、本来の姿であるイノベイドとしての脳量子波による通信が可能だが、これはリヴァイヴによる一方通行のものである。アニュー本人はリヴァイヴからのコンタクトを覚えていない。

プトレマイオス2の操舵を担当するほか、医療などサポート全般をこなす。またイノベイドの特徴として脳量子波を持つ。

Ⓐ同タイプであるリヴァイヴと同じ面影を持つが、個性の違いか表情は別人と言える。リヴァイヴは中性型として造られたが、アニューは女性型。身長170cm、体重49kgであったという。
Ⓑ通常はCBの制服で行動しており、他の女性陣と同様に赤系の上着を着用している。しかし、交戦の際はノーマルスーツを着込んでプトレマイオス2のブリッジに赴く。
Ⓒイノベイド覚醒後にガッデスで出撃した際は、イノベイド用のパイロットスーツを着用している。これはリヴァイヴのものと同様で、紫を基調としたパーソナルカラーが施されている。

「言ってくれなければわかりません。ニブイですから」自分を気に掛けるライルに礼を言うアニューは、額に口付けされ、彼の気遣いは好意だと知る。恋を知らなかった彼女はライルを受け止め恋人となった。



アニューはミレイナを人質に脱出を図る。その際にライルを誘い、応じた彼を刹那が撃ったことに動揺し、人質を奪還されてしまう。

「もう一度おまえを俺の女にする!」アニューを欲するライルの強い意思を受け、アニューは自分の中にある彼への愛を自覚した。

ライルと一緒に過ごすアニューに、リヴァイヴからの脳量子波通信が入る。そのことを覚えていないアニューだが、ライルは彼女の不審な様子を仲間に伝えず胸のうちに留めた。

ダブルオーライザーのGN粒子はアニューとライルを包む。そこでアニューはライルに出会えたことを感謝し、お互いにわかり合えていたことを確認する。

MORE INFO!　イノベイドと脳量子波

「イオリア計画」の進行と管理を担うため、ヴェーダによって生み出されたイノベイド。戦闘型や情報収集型など目的によってタイプが異なり、男女の別や性のないタイプも存在。何パターンかの塩基配列を基に生み出される。イノベイドには自らが端末という自覚を持たず、人間社会に溶け込んで情報収集を行うタイプが存在する。アニューもまた、スパイとして潜入しやすいように自分がイノベイドとは知らぬまま行動していた。そして脳量子波を用いるために通常の機器では発見されないままイノベイド同士で通信できる。

ライルに家族のことを尋ねられたアニューは思考停止する。造られた端末ゆえに設定されていない情報がある。

リヴァイヴ・リバイバル

アニューと同じ塩基配列を持つイノベイド。リボンズの指示を受け、アニューとの脳量子波通信を利用してCBの内情を掴み、ダブルオーガンダムの奪取を計画した。アロウズに最も早く合流したイノベイドで、プライドが高い。

シーリン・バフティヤール
Shirin Bakhtiar

PROFILE
年齢　27歳
所属　アザディスタン王国
階級　——
出身　アザディスタン王国
技能　政治

unknown

マリナに期待を寄せる
政治力に長けた才媛

第一皇女を補佐する マリナの教育係

軌道エレベーターによる太陽光発電計画——それは資源の枯渇によるエネルギー問題を解決するが、化石燃料を産業の要としていた中東諸国にとって歓迎すべきものではなかった。太陽光発電計画に不参加・反対を唱えた国家はその恩恵を受けられず、さらには三大勢力の石油規制を受けて困窮していく。アザディスタン王国もまた、その典型的な中東国家のひとつであった。同国で第一皇女の側近を務めるシーリン・バフティヤールは、第一皇女マリナ・イスマイールに助言を与え、彼女の政治力を育む立場にある。改革派が王国の象徴として担ぎ出したマリナは、王家の血を引くものの普通の家庭で育ったため政治に疎く、補佐を必要としていたからである。

西暦2307年、ソレスタルビーイング（CB）の登場が世界を激変させていく。CBの武力介入により巻き起こる政局の混乱に対し、シーリンはマリナを成長させる糧とすべく働き掛けるのであった。

政治に不慣れなマリナの教育係でもあるシーリンは、単なる補佐としての助言だけではなく、揺れる世界情勢を教材として講釈し、マリナの成長を促した。

太陽光発電システムを持つ諸外国へ、援助を求めて出掛けたマリナ。同行せずに留守を守ったシーリンだが、その際もマリナとは密に連絡を取り合った。

CHARACTER ——— その人格

マリナとは大学時代からの友人であり、側近として頼りにされている。彼女に対して妹のような愛着を持つ反面、冷静で現実的なシーリンは、理想を追い求めるマリナの姿勢に苛立ちと頼りなさを覚えることもあったという。

マリナを成長させるため、時には突き放した言動を取って試すこともあったシーリン。これは期待の表れと見て取れるだろう。

RELATIONS

統一国家となった地球連邦政府は、中東諸国に過酷な政策を打ち出す。母国を憂うシーリンは国の再建だけでは無駄だと判断。マリナの下を去って反政府組織カタロンに身を投じる。

関連ファイル

アレハンドロ・コーナー	00-02-15
マリナ・イスマイール	00-02-35
アザディスタン王国の内紛	00-03-05
中東諸国	00-03-35

FILE PREVIEW
00-02-35　マリナ・イスマイール

アザディスタン王国の第一皇女で、改革派に擁立されて即位する。厳しい国家事情に苦慮しながらも、対話によって平和を実現しようと国政に携わり、国民からの人気も高い。

毅然としなさい、マリナ・イスマイール！

アザディスタン王国は経済・内政において危機的な状況にあった。その打開を求めて議会は王制を復活。マリナを象徴として祭り上げ、太陽光発電システムを有す国家からの技術支援などを期待したのである。自らの役割を果たそうと努力するマリナだが、国家の代表として知識と経験の不足は如何ともし難く、シーリンは政治面の補佐を請け負う。また単なるアドバイザーとしてではなく、マリナに政治的な物の見方を身に付けさせるため、教育係としても骨を折っていた。マリナの側近として常に付き従うシーリンは、各国の情勢を教材として講釈を行う。そうしてマリナに政治的な意味や真意を考えさせ、政治観を養うように指導したのである。一方でマリナは非戦を旨としており、対話による問題解決を目指す。それがどれだけ理想論か知るシーリンはマリナの政治方針に肯定的ではなかった。それでもマリナが第一皇女として相応しい人物だと期待し、シーリンはマリナを見守っていく。だが、保守派のリーダーであるマスード・ラフマディの誘拐を発端とし、アザディスタン王国に内紛が発生。国家の建て直しを太陽光発電に求めたことも保守派の反発を招いたのだ。自らが最悪の事態を招いたことにマリナは自信を失うが、シーリンは国家の危機に超然と構え、マリナに活を入れて立ち直らせたのである。指導者としてはまだ心許ないマリナだが、シーリンの支えが彼女を第一皇女として成り立たせていたと言えよう。

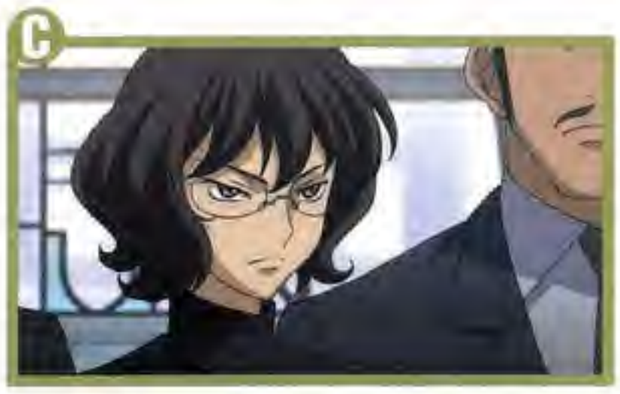
足跡 マリナへの協力と別れ

西暦2307年、アザディスタン王国は大きな危機を迎えていた。テロが都市部にまで及び、穏健派と手を組む前に改革を推し進めねばならない状況となる。援助を請うため遊説に向かうマリナに、無償で援助してくれる国はないと現実を突き付けるシーリンは、国内が荒れることでCBの武力介入があると助言。その予測通りマリナの遊説は食糧支援に留まり、太陽光発電システム建設の技術援助は空振りに終わる。しかし国連から技術支援の話が舞い込む。不自然な話にシーリンは疑惑の目を向けるが、案の定、それが火種となりアザディスタン王国はまたも内紛に見舞われる。マリナを支え事態の収拾にあたるシーリンだったが、結局CBの介入で事態は収束した。その後、地球連邦政府が樹立。その政策下で母国に未来はないと悟ったシーリンは、自らの力で国を守るべくマリナの下を去るのだった。

能力 聡明な洞察力の持ち主

27歳という若さながら第一皇女の側近を務めるシーリンは、政治面に関して深い造詣を持つ。タリビア王国が突然ユニオンを脱退して太陽光発電のエネルギー権を主張した件に対し、その意図を正確に洞察。CBを利用してタリビア王国が利益を得ようとしていたことを看破し、マリナへの政治講釈に用いたこともある。その際に、CBは世論を気に掛けず戦争根絶の理念を貫いたことを察しており、CBの利用は無理だと結論づけていた。

政治だけでなく洞察力にも優れ、三大勢力が手を結んで国連軍を編成したことを知り、CBの目的が実は世界をまとめることではないかと察した。



Ⓐ知的な相貌を裏切らない頭脳明晰な人物。アザディスタン王国は女性が政治に参加できないため、その分、マリナに寄せる期待は大きなものとなっているのかもしれない。
Ⓑ誕生日は10月20日、血液型はB型、身長169cm、体重49kgであったという。側近としてマリナの傍に控えている際は民族衣装を身に着けている。
Ⓒ空港で国連大使をマリナと出迎えたシーリンは、側近一同と共に黒のスーツを着用。時期の合わない国連の援助を訝しみ、アレハンドロ・コーナー国連大使に鋭い視線を送っていた。
Ⓓ地球連邦政府の発足後、アザディスタン王国を去る際に着ていたスーツ。CB壊滅後のシーリンは髪を伸ばしており、カタロンに加入後も長髪のまま過ごしていた。

タリビア王国次第でアザディスタン王国の未来は変わるとマリナに語るシーリン。それはCBの利用を視野に入れての発言だった。

CBの利用を目論んだタリビア王国の真意はどこにあるのか、第一皇女としての資質を測るかのようにシーリンはマリナに問い掛ける。

「わたくしにしかできないからよ」遊説に向かうマリナに、問題が山積するアザディスタン王国の第一皇女の役をどうして引き受けたのか、シーリンは問う。マリナは決意を含んだ答えを返すのだった。

アザディスタン王国に技術支援を行う真意をアレハンドロに問い質すシーリン。紛争後の復興支援よりも争いをなくす方が重要だとの答えを、「ご立派なお考えですこと」と、彼女は言葉通りに受け取らず、話半分に聞く。

アザディスタン王国の内紛は自分が招いたことだと自らを責めるマリナ。まだ終わっていないというシーリンの一喝は、マリナに第一皇女という自分の立場を思い出させ、危機を乗り越える力を与えた。

MORE INFO! アザディスタン王国とクルジス共和国

カスピ海とペルシャ湾に挟まれた、中東の新興国家であるアザディスタン王国。化石燃料に固執したため軌道エレベーター建設計画に協力せず、エネルギー供給権を得られなかった。さらに国連が石油の輸出を規制したことから経済危機に陥り、人種・信教の問題も抱えていた。国内は他国に力を借りようとする改革派と変革を求めない保守派が対立。西暦2307年では、テロの絶えない政情が不安定な状態であった。遡ること6年前の西暦2301年、内政が悪化した隣国のクルジス共和国を武力で併合。王政を復活させたが国教の解釈の違いにより、ふたつの教派に分かれている。

太陽光発電紛争で疲弊したクルジス共和国は内紛状態となる。そこをアザディスタン王国が武力併合した。

刹那・F・セイエイ
ガンダムエクシアのマイスター。クルジス共和国の出身であり、少年兵として洗脳を受けクルジス紛争に参加した。そこで刹那はガンダムと邂逅し、運命を変えた。

アリー・アル・サーシェス
PMCトラストに所属している傭兵。クルジス紛争に関与しており、刹那を誘拐して洗脳し、少年兵に育て上げた人物である。自らの主義主張を持たず、戦いを追い求める戦争屋。

ジャミル・ニート
Jamil Neate

PROFILE

年齢	30歳
所属	旧地球連邦軍→フリーデン
階級	——
出身	地球
技能	MS操縦、部隊指揮

unknown

悲劇の引き鉄を引いたが故に心に傷を負ったニュータイプ

自らの過ちを繰り返さないため ニュータイプを捜したバルチャー

第7次宇宙戦争——連邦軍と宇宙革命軍の衝突は、地球人口100億の大半を死に至らしめる最悪の形で終わりを迎えた。その災厄を招いたコロニー落としの引き鉄を引いたのは、当時15歳のニュータイプ兵士だった。それから15年が過ぎたA.W.0015、成長した少年は未だ心に負った深い傷に苛まれていた。その者の名を、ジャミル・ニートと言う。

かつて連邦軍に所属したジャミルは、ニュータイプ能力を認められて第7次宇宙戦争においてガンダムXのパイロットを務め、宇宙革命軍のコロニー落とし作戦を阻止するためにサテライトキャノンを用いた。しかし、その行為は作戦の強行を招き、地球に甚大な被害を与えてしまう。ジャミルはそれにより大きなトラウマを抱え、戦後は連邦軍を離れる。そして、同じ過ちを繰り返さないため、さらにニュータイプを自分と同じ戦争の道具にさせないため、バルチャーとして放浪の旅に臨んだのだった。

第7次宇宙戦争に連邦軍の兵士として参加し、宇宙革命軍が地球に向けたコロニーを破壊するためにサテライトキャノンの引き鉄を引く。それが悲劇の始まりとなった。

戦後はバルチャーとしてフリーデンを率い、交易を営む傍らニュータイプの保護を目的に各地を旅した。そうしてようやく見つけたのがティファ・アディールだった。

CHARACTER —— その人格

寡黙で無表情、内面を表に出すことの少ない性格だったが、誠実で正義感の強い人柄からクルーやバルチャー仲間からの信望は厚かった。一方で、ガロードの無鉄砲な行動を後押しするなど、熱血漢の一面もあった。

カリス・ノーティラスに敗れて自分を見失ったガロードに対し、凍った湖の上に放り出すという強引なやり方で自信を取り戻させたこともあった。

RELATIONS

MAIN MS / MAIN MECHANIC

GX-9900 ガンダムX

旧連邦軍が開発した、サテライトシステムを装備するMS。前大戦のジャミル機はガンダムDXへと改修され、ガロードが発見した機体をのちにジャミルが運用した。

フリーデン

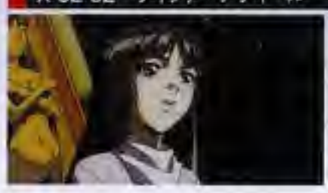
戦後バルチャーとなったジャミルが所有し、艦長を務めたアルプス級陸上戦艦。武装は少ないが優れた走破性能と積載能力を誇り、ジャミルたち一行の母艦として活躍した。

関連ファイル

GX-9900 ガンダムX	X-01-01
フリーデン	X-01-16
ガロード・ラン	X-02-01
ティファ・アディール	X-02-02
フリーデンのクルー①	X-02-06
フリーデンのクルー②	X-02-07
ニュータイプ(A.W.)	X-03-19

FILE PREVIEW

X-02-02 ティファ・アディール



ニュータイプ能力を持つ寡黙な少女。アルタネイティヴ社に囚われていたが、ジャミルに助け出された。ニュータイプを探すためフリーデン一行と行動を共にする。

私自身が、誰よりもニュータイプという言葉に縛られていたのだな……

A.W.0015、ニュータイプを探す旅を続けていたジャミルは、ティファ・アディールを救い出す。その力を巡る戦いの中でガロード・ランをフリーデンのクルーに加えたジャミルは、年長者としてガロードを導く一方で、彼の純粋さと旺盛な行動力に影響されていく。

その後も、ティファが示す道に従い各地を旅したジャミルは、その過程で15年前の戦争が未だ地球に影を落としていることを思い知ることになる。ニュータイプの力を利用しようとする者たちの暗躍と、新連邦政府の樹立——危惧していた事態が現実のものとなる中で、ジャミルはティファとフリーデンの仲間たちを守るため、そしてニュータイプの真実を知るために戦ったのだった。

しかし、ティファは宇宙革命軍に連れ去られ、ジャミルは彼女を助けようとするガロードを宇宙に上げた。その戦いで新連邦軍に捕らえられ、処刑されそうになるジャミルだったが、カリスら反政府組織の助けで難を逃れる。さらに、再び戦争が起こりつつあることを知ると、ガロードと共に帰還したティファの導きで月を目指す。そして、激戦の末にD.O.M.E.（ドーム）と接触したジャミルは、自らが追い求めてきたニュータイプという存在が幻想に過ぎないことを知る。それは、ジャミルにとって15年に及んだ苦悩との決別の瞬間でもあったのである。

足跡 旅の先にジャミルが辿り着いた答え

ジャミルは前大戦のトラウマが原因でコクピット恐怖症を患っていたが、ガロードと接することでそれを克服し、ガンダムX（ディバイダー）のパイロットとして戦場に出るようになる。さらに、ローレライの海ではルチル・リリアントの力を借りてF（フラッシュ）システムを起動させ、Gビットを操った。ジャミルは過去に味わった挫折を、一歩ずつ乗り越えていったのである。

また、ニュータイプの保護を目的としたジャミルの旅は、彼自身の心の傷を塞ごうとする行為でもあったと言える。カトック・アイザミールとの出会いでそれを正視したジャミルは、己の弱さを受け入れた上でニュータイプが示すものを求めた。そして、自分がかつて垣間見た「時」の意味を確かめるために戦い、D.O.M.E.との対話でニュータイプという言葉に縛られていた自身に気付いた彼は、ついにその呪縛から解き放たれたのだった。

能力 再起によって手に入れたかつての力

前大戦時にはニュータイプ兵士として活躍したジャミルだったが、トラウマを抱えると同時にその能力を失った。それでも、ある程度の力は残されており、ティファの思念を感じることもできた（その際には酷い苦痛を味わい、出血も伴った）。また、コクピット恐怖症を克服したのちは、かつてのエースの技量を復活させ、前線からフリーデンの指揮を執っている。

ニュータイプとしての力の大半を失いながらも、ルチルや仲間たちに支えられてかつての自分を取り戻していき、やがてはパイロットとして活躍した。

A

B

C

D

Ⓐいかなるときもサングラスを外さず、表情を隠していた。その姿勢は徹底しており、重傷を負って医務室のベッドに寝かされていた際にもサングラスはかけたままだった。
Ⓑサングラスを外した素顔。D.O.M.E.と接触して真実を知ったのちはサングラスを外した。顔の左に走る傷跡は、前大戦のランスロー・ダーウェルとの戦いで負ったものという。
Ⓒ前大戦で旧連邦軍のパイロットとして戦っていた頃のジャミル。ニュータイプの能力を発揮する当時のエリートであり、軍からは英雄として祭り上げられていた。
Ⓓあどけなさが残る若き日のジャミルの表情。その顔立ちはどことなくガロードに似ており、ジャミルも出会った当初のガロードに過去の自分を重ねていた。

ガロードの天性の才能とティファへの一途な想いに期待をかけ、フリーデンのクルーとして招き入れてガンダムXのパイロットを任せた。

新連邦軍と宇宙革命軍の間で戦争が再燃すると、反政府組織の支援を受けてフリーデンIIの指揮を執り、状況を打開すべく宇宙に上がった。そこで、前大戦時のライバルであるランスロー・ダーウェルと、15年の時を経て対面している。

ローレライの海でティファの身体を借りたルチルと再会し、彼女を助けるためにガンダムXで戦う。しかし、ルチルをLシステムから解き放つことはできず、彼女を海底に沈めて過去の記憶に別れを告げた。

D.O.M.E.との対話によって、新しい未来を創るものが前に進もうとする強い意志であることを知ったジャミルは、自分が古い時代に囚われていたことに気付くのだった。

D.O.M.E.を巡る戦いが終結したのちは、フリーデンを解散して自らの未来を模索し始める。サラと共に和平協議会の一員として新連邦と宇宙革命軍の和解に力を尽くした。

MORE INFO!

前大戦時、旧連邦軍の教育士官としてニュータイプの養成とFシステムのコントロール指導に携わっていた人物が、ルチル・リリアントだった。ジャミルにとってルチルは直属の上官であると同時に憧れの女性でもあり、15年経ったA.W.0015にも彼女と一緒に写った当時の写真を保管していた。しかし、ジャミルはルチルと哀しい再会を果たす。

Lシステムに組み込まれたルチルの肉体は、戦後、ローレライの海と呼ばれた海域に沈んでいた。しかし、オルバ・フロストによってGビットと共にサルベージされたことから、争いの火種となる。

ジャミルの教官

ルチル・リリアント
早くからニュータイプ能力を覚醒させたが、戦争で精神を破壊されてなお、Lシステムの中枢として利用される。右はティファの身体を借りたルチル。

歴史フォーカス

ソレスタルビーイング再始動

CELESTIAL BEING RESTART

A.D.2312

アロウズによる弾圧とCBの苦闘の始まり

西暦2312年、地球圏は地球連邦の統治下に置かれ、地球連邦国民は平和を享受していた。「イオリア計画」の一段階、人類の意思統一は、唯一の超々大国の誕生という形で進んでおり、非地球連邦国は中東を中心とした少数の国々でしかなかった。

だが、地球連邦内の平和と繁栄は、地球連邦国民が知らない「歪み」の上に成り立ったものだった。地球連邦の前身である国連時代から、地球統一は強引な手法で行われていたが、地球連邦への移行後も、太陽光発電システムの送電権を盾にした地球連邦参加国への恫喝、非地球連邦参加国の切り捨てと粛清、反地球連邦勢力の掃討によって、地球連邦政府は人類の意思統一を進めていたのである。

その尖兵が連邦治安局、そして政府直属の独立治安維持部隊アロウズだった。特にアロウズは、一般への被害を考慮せずに、非地球連邦勢力を掃討・虐殺していたのである。その被害はアロウズの活動開始が公表された時点で数万人規模に達していたが、量子型演算処理システム「ヴェーダ」の情報統制により、虐殺の事実は公にならなかった。

この事態に際して、再び歴史の表舞台に現れたのがソレスタルビーイング（以下CB）である。

西暦2308年、国連軍との戦闘で壊滅したCBだったが、秘密裏に組織と戦力の再編を進めていた。西暦2307年から2308年の武力介入にも拘らず、三大勢力時代以前と変わらない「歪み」が繰り返されたこととアロウズへの反発などから、CBはアロウズ撃破を第一目的とする行動を開始したのだ。各地に散っていたメンバーの再集結や新メンバーの加入、新型ガンダムと新母艦の投入により、CBは戦闘態勢を整えたが、往時ほどの戦闘能力はなかった。

アロウズと地球連邦平和維持軍に疑似太陽炉搭載MSが配備されたため、新型ガンダムでも絶対的優位性を発揮できなかったことも大きいが、それ以上に情報面で不利な状況にあった。CBはヴェーダを失っていたうえ、エージェントの王留美が情報を漏らしていたのである（王はある意図から二重スパイ的役割を演じ、以後も活動を続けた）。

王留美がCBの情報を提供した相手こそ、かつてヴェーダを奪取してCBを壊滅に追いやり、地球連邦政府とアロウズを裏から操っていたリボンズ・アルマークだった。「イノベイター」を自称するリボンズたちは、自身が望む形で「イオリア計画」を実行すべく、アロウズに弾圧を行わせていたのである。

しかし、この時のCBは、王留美による情報漏洩も、「イノベイター」の存在も知らなかった。再起したCBは、苦戦しながらも新旧メンバーを集め、アロウズとの戦いを繰り広げていく。それは長い苦闘の始まりだったが、「純粋種イノベイター」の誕生に代表される、新時代の幕開けを告げる戦いでもあった。

（アリステラ・デクシア　A.D.2614）

関連ファイル

刹那・F・セイエイ	00-02-01
スメラギ・李・ノリエガ	00-02-06
リボンズ・アルマーク	00-02-18
西暦2312年の世界	00-03-38
独立治安維持部隊アロウズ	00-03-41
西暦2312年の紛争	00-03-44

FILE PREVIEW

00-03-38　西暦2312年の世界

地球連邦の誕生に伴い、「イオリア計画」による人類の意思統一は進みつつあった。しかし、その裏では非連邦参加国への弾圧が行われるなど、世界は再び「歪み」始めていた。

Illustration by KOUHEI YONEYAMA ／Color by AKEMI NAGAO (Wish) ／Special effect by AKIKO YAMAKAWA (ASAHI PRODUCTION)

ソレスタルビーイング 宇宙から地上へ

スペースコロニー「プラウド」の戦闘で再び姿を現したCBだが、それ以前から新型ガンダムの開発や組織の再編を進めており、プラウド戦の3ヶ月前には新型機ダブルオーガンダムの起動テストを終えていた（テストは失敗）。一方のアロウズは、ラグランジュ2のカタロン基地「レゾルス」を破壊した。

プラウド戦でガンダムマイスターの刹那・F・セイエイと合流したCBは、アロウズと交戦しつつメンバーを集め、アレルヤ・ハプティズムを救出するため地上に降下。そのまま地上戦を展開した。

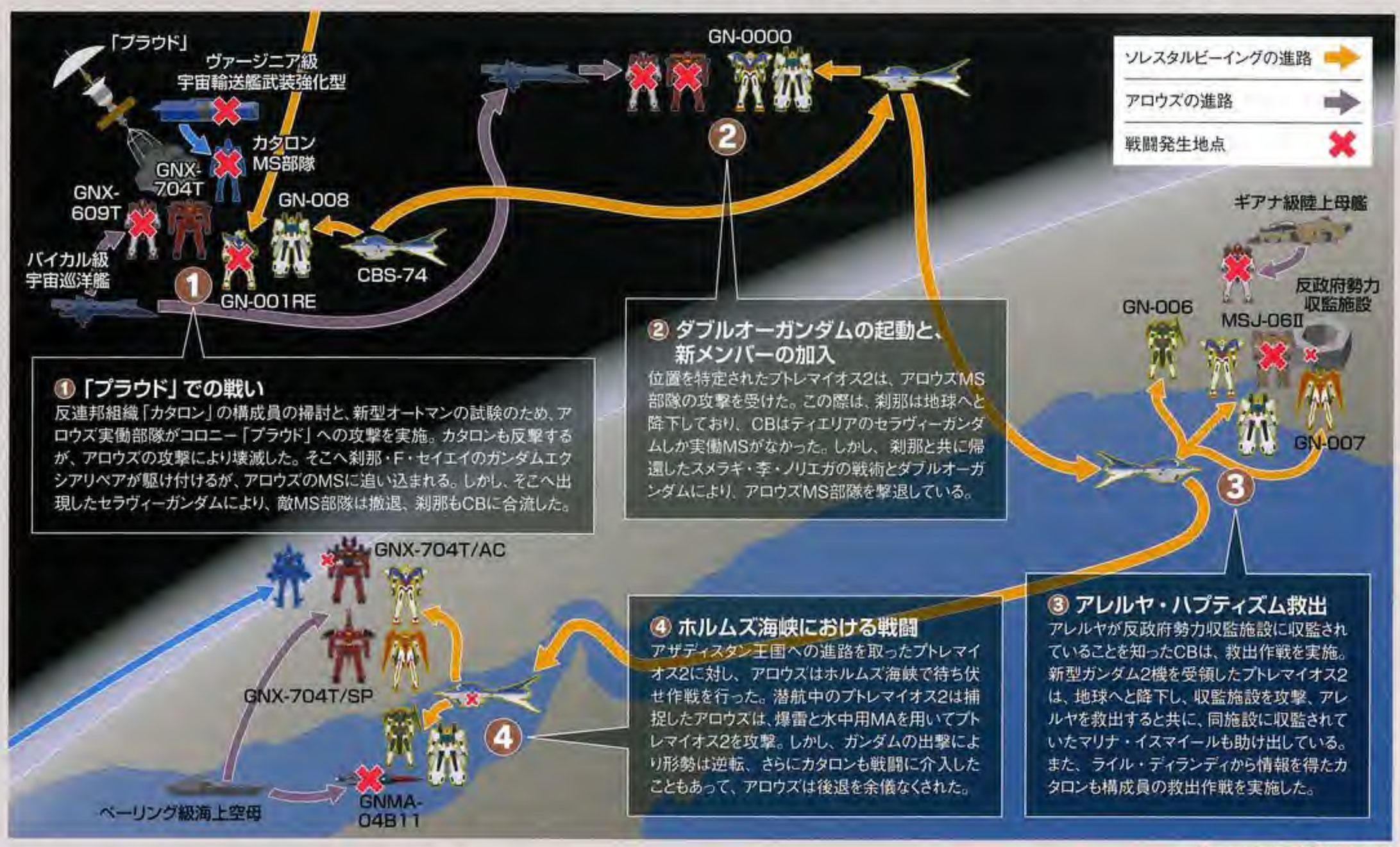


Illustration by AKIO UNUMA

① コロニー「プラウド」の戦い

アーサー・グッドマン准将が指揮を執るアロウズ実働部隊が、ラグランジュ4のコロニー「プラウド」を攻撃。高重力鉱業区画で強制労働に就いていた反地球連邦組織「カタロン」の構成員の掃討、新型オートマトンのテストが目的だった。これを察知したカタロンは救出作戦を展開したが、救出部隊はアロウズの攻撃を受けて壊滅し、高重力鉱業区画もオートマトンの攻撃で掃討された。だが、プラウドに潜入した刹那の抗戦とCBの新型機セラヴィーガンダムの介入により、アロウズは後退した。

ガンダムエクシアリペアはアロウズに太刀打ちできなかったが、駆け付けたセラヴィーガンダムは敵機を圧倒。戦闘後、刹那はCBに合流した。

② ダブルオーガンダム起動

王留美がリボンズ・アルマークにリークした情報から、位置を特定されたCB新母艦プトレマイオス2は、グッドマン准将指揮のアロウズ実働部隊（MS5機）の襲撃を受けた。この時、カタロン構成員にして新ガンダムマイスターのライル・ディランディと、戦術予報士スメラギ・李・ノリエガを迎えるため、刹那が地上に降下しており、CBのMSはティエリア・アーデのセラヴィーガンダムだけだった。しかし、帰還したスメラギの戦術と、刹那が起動させたダブルオーガンダムにより襲撃部隊を排除、離脱に成功した。

スメラギの戦術プランに従って機雷散布とセンサーの攪乱を行った後、セラヴィーと起動したダブルオーの抗戦でアロウズMS部隊を撃退した。

③ 反政府勢力収監施設の戦い

王留美からの情報により、ガンダムマイスターのアレルヤ・ハプティズムの位置が判明。収監場所は、旧人類革新連盟領の反政府勢力収監施設だった（王が情報を流した背景には、地上部隊でCBの戦力を調べるというアロウズの意図があった）。ラグランジュ1の秘密基地で2機の新型ガンダムを受領したプトレマイオス2は、アレルヤの救出を決定し、地球に直接降下。反政府勢力収監施設を襲撃すると、アレルヤを救出し撤退した。この際、ライルから情報を受けたカタロンも、構成員救出作戦を実施した。

スメラギの戦術プランは所要時間300秒の電撃作戦だった。この際、収監されていたアザディスタン王国第一皇女マリナ・イスマイールも救出。

④ ホルムズ海峡の戦い

マリナの求めに応じたプトレマイオス2は、アザディスタン王国に進路を取った（移動方法は潜行）。これに対してアロウズはホルムズ海峡付近で待ち伏せを行った。アロウズ少佐アーバ・リントが、当時のCBが私情で動いていると判断したためである。リント少佐の予想は的中し、アロウズは潜行中のプトレマイオス2を捕捉、爆雷攻撃と水中用MAで追い詰めた。しかし、ガンダムの出撃で形勢が逆転。洋上戦でアロウズのMSがガンダムを迎撃したが、カタロンの介入もあってアロウズは後退した。

魚雷を受けたうえ、ソナー、火器、舵を封じられたプトレマイオス2だが、出撃したガンダムが事態を打破。戦闘後、CBはカタロンと接触した。

MORE INFO!

CBの新戦力

西暦2308年に戦力を喪失したCBは、水面下で新型MSと新母艦の開発を進め、西暦2312年の紛争では新型機と旧来機の改修型を投入した。このうち、完全新設計機にあたるのが、4機の新型ガンダムと新造艦CBS-74 プトレマイオス2である。特に「世界を変える機体」と呼ばれるダブルオーガンダムは、単なる戦闘兵器以上の機能を持ち、純粋種のイノベイターを生み出す鍵となった。

プトレマイオス2
航宙、飛行、潜水、大気圏突入／離脱が可能な万能母艦。砲雷撃能力や光学迷彩機能も持つ。

GN-0000 ダブルオーガンダム
2基の太陽炉を搭載する。ツインドライヴシステムは2乗量のGN粒子を発生させるが、システムが安定しなかった。

GN-006 ケルディムガンダム
デュナメスの後継機にあたる狙撃仕様のガンダム。遠隔操作式の攻撃／防御端末GNシールドビットを搭載する。

©創通・サンライズ・MBS

MS 運用理論

センサーと通信システム

MS Technology in U.C.
宇宙世紀のMSの技術

「視覚」を中心とした MSの「五感」を司る装置

MSに代表される機動兵器には、ミノフスキー粒子散布環境下での運用を想定したセンサー=外部映像認識装置や通信システムが採用されている。機動兵器用センサーとしてはジオン公国軍の「モノアイ」が、通信システムとしては接触回線やMSの腕部を用いたハンドシグナルなどが知られる。ミノフスキー粒子によって無効化／弱体化される旧来の索敵手段（主にレーダー）や無線通信装置も状況によっては有効なため併設されるが、戦闘行動時には機動兵器特有のセンサーや通信システムが必要となる。なお、本稿ではセンサーを中心に解説し、通信システムに関しては別稿で詳しく紹介する。

機動兵器が新たなセンサーを必要とした背景には、ミノフスキー粒子がもたらす有視界戦闘がある。

可視光線を除く、ほとんどの電磁波を減衰させるミノフスキー粒子によって精密誘導兵器を用いた超遠距離目標への攻撃や索敵は、極めて困難になった。

ミノフスキー粒子散布環境下での探査手段として、ミノフスキー粒子濃度の変化や干渉波形（ミノフスキー干渉波）を利用し、導電性物質の位置とサイズをおおまかに調べるミノフスキー干渉波形分析式逆探知システム、Iフィールドの崩壊状態を観測することで散布源の位置を推定するミノフスキー・レーダーなどが一年戦争後に実用化されたが、いずれも一長一短があり、決定的な解決策にはなっていない。

結果、ミノフスキー粒子散布環境下における戦闘は、有視界戦闘と呼ばれる近距離戦が主体となった。宇宙世紀の戦場が、第二次世界大戦以前のレベルに回帰したと言われるのは、このためである。

有視界戦闘の呼称の通り、近距離戦で頼りになるのは肉眼だが、肉眼では補い切れない各種情報を投影する必要性もあって、MSは装甲で密閉されたコクピットを採用した。これを受けて採用されたのが、「視覚」を中心としたMSの「五感」を司るセンサー類だった。

肉眼の代替となるセンサーの代表が光学カメラであり、モノアイを原点とするMS用外部認識装置の主機として採用され続けている。可視光線を感知する光学カメラであれば、ミノフスキー粒子散布環境下でも問題なく稼働するほか、高度な遠距離監視能力や分析能力を発揮できる（光学カメラが得た映像は、機体各部に設置された補助センサーの情報と統合、コンピューター処理され、コクピットのモニターに投影される）。MS用外部認識装置には赤外線センサーやレーザー・センサー、射撃センサーなども併設されており、多機能なセンサー複合体となっている点も特殊である。

（オットー・カルテンバッハ　U.C.0155）

関連ファイル

RX-78-2 ガンダム	FG-01-03
MS-06F ザクII F型	FG-01-08
XM-01 デナン・ゾン	F91-01-06
ZM-S08G ゾロ	V-01-11
MS（モビルスーツ）	FG-03-17
コクピット	FG-03-27

FILE PREVIEW
FG-03-27 コクピット

パイロットが搭乗する部位で、MSの中枢とも言える。当初は複数枚のモニターに外部情報などを投影していたが、全天周囲モニターの実用化に伴って、より高度な情報処理が可能となった。

Illustration by KENKI FUJIOKA

MS用センサーの誕生

ミノフスキー粒子の軍事利用にあたり、ジオン公国軍は有視界戦闘に対応した新兵器MSを開発。その外部認識装置として実用化された機器が、光学カメラを主機とする「モノアイ」だった。

U.C.0030年代後半に開発された機動重機用カメラ・システムを原型とするモノアイ。ザクIA型で基本部分が完成した。

MS用センサーがない場合

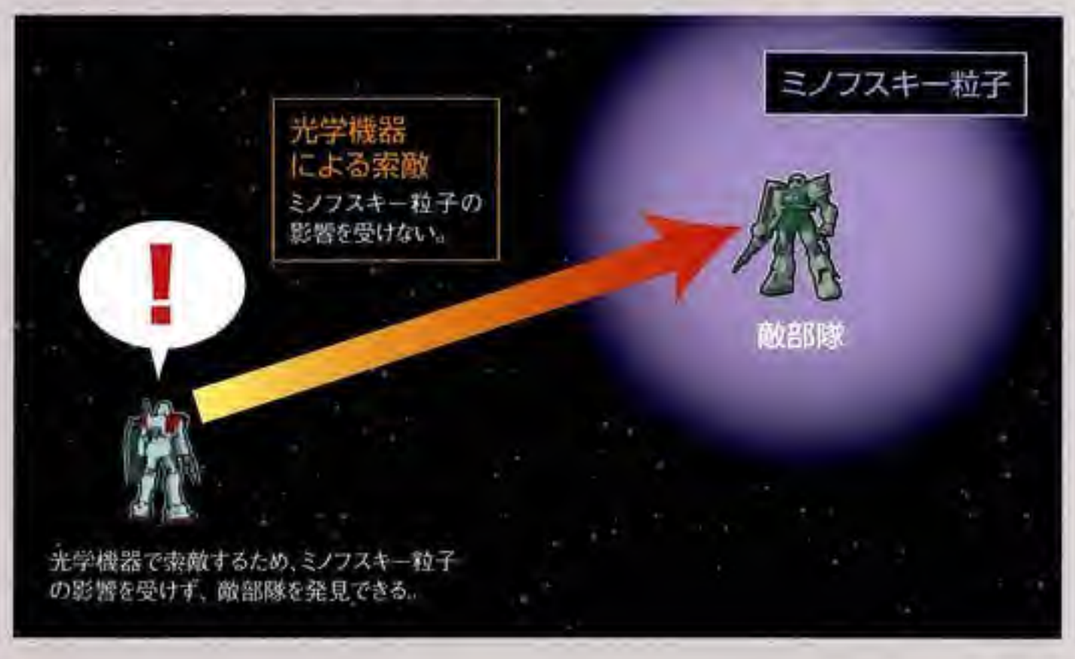
MS用センサーを搭載しない兵器は、ミノフスキー粒子散布環境下での索敵手段と捕捉／追尾手段がほとんどない。レーダーはミノフスキー粒子の影響で使えず、敵機を確認した頃には手遅れの場合も多い。

レーダーに依存する兵器は、ミノフスキー粒子散布環境下では目隠しされたも同然の状態になる。攻撃手段も限定され、MSに対抗できない。

MS用センサーがある場合

艦載レーダーやレーダーサイトほどの索敵範囲は持たないが、MS用センサーを備える機体は、ミノフスキー粒子散布環境下でも外部情報を得られる。光学カメラがミノフスキー粒子の影響下でも有効なためである。

レンジこそ短いが、目標を発見・捕捉できる。なお、MSのセンサー有効半径とはミノフスキー粒子散布環境下での数値を示す。



MS用センサーの系統

ジオン公国軍のモノアイは優れた外部映像認識装置だったが、地球連邦軍をはじめとする非ジオン組織は独自のMS用センサーを開発した。それぞれ一長一短があるが、U.C.0100年代以後のモデルはより高性能と言える。

デュアル・カメラを多用した地球連邦軍だが、U.C.0080年代にはモノアイを採用。ジェガンは固定式の単眼タイプだった。

■ ジオン系センサーシステム

モノアイとして知られる。光学カメラを主機とし、電磁波／赤外線／レーザー式などを並列配置した複合センサーである。モノアイは走査レールに沿って移動可能だった。

■ 地球連邦軍系センサーシステム

頭頂部にメイン・カメラを、双眼部に複合センサーのデュアル・カメラを固定装備する。U.C.0080年代初期までのデュアル・カメラは、コクピット内の精密照準スコープと連動。

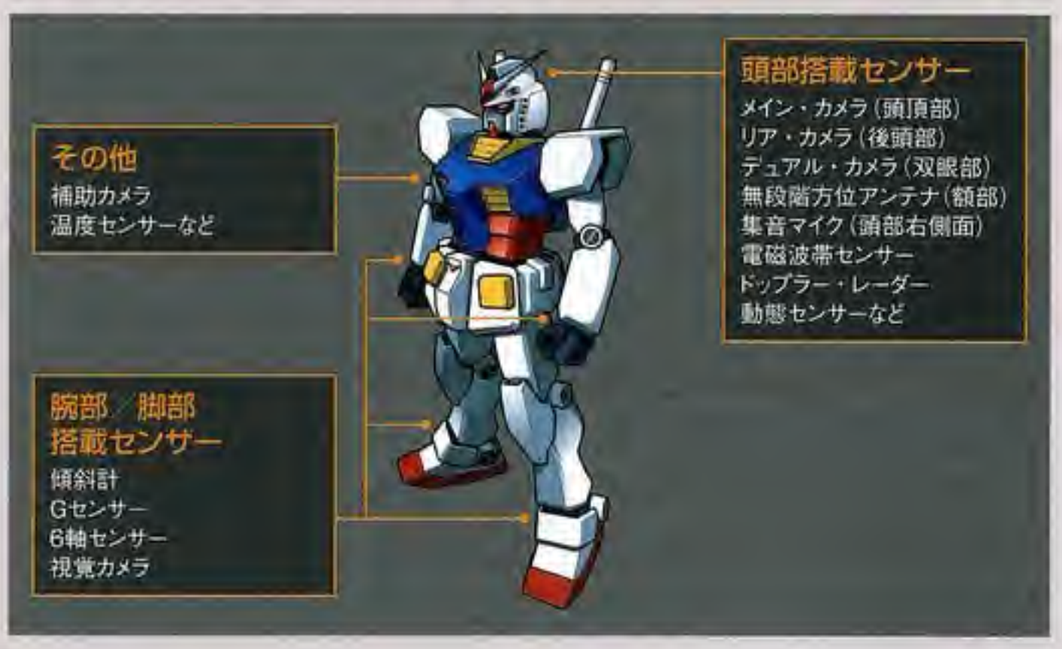
■ その他組織のセンサーシステム

クロスボーン・バンガードのハイブリッド・デュアルセンサー（ハイブリッド・センサー）、ザンスカール帝国軍ベスパのデュアル・センサーが知られる。ハイブリッドデュアル・センサーは、距離感や立体的な解析能力に優れ、モノアイの数倍もの能力を誇る。

機体各部の搭載センサー

MSのセンサー搭載部位は、頭部だけではない。補助カメラが機体各部に設置されているほか、光学系以外のセンサーも多数搭載しているのだ。下図は、RX-78 ガンダムの代表的なセンサーと搭載位置を示している。

メイン・カメラの有効範囲外の外部映像は、多数の補助カメラがフォロー。このため頭部を破壊されても外部映像は得られる。



MORE INFO! センサーを利用した通信

MSのメイン・センサーは、単なる外部映像認識装置ではなく、通信装置としての機能も持ち合わせている。モノアイの場合、カメラの点滅をモールス信号式のライトシグナルとして使用できたほか、レーザー通信の送受信端末機能も導入されていた。

メイン・センサーを点灯させての威嚇も、敵に向けての通信手段の一種と言える。

MS-06S ザクIIS型

ルウム戦役時、シャア・アズナブル中尉が搭乗するザクIIS型は、モノアイを点滅させる光信号でランチと通信。

MORE INFO! 特殊なMS用センサー

これまで解説したように、MSは光学系を中心とした多数のセンサーを搭載するが、中には特殊なセンサーを持つ機体も存在する。偵察用や水陸両用などの特殊用途機に顕著な傾向だが、胸部にスキャナを搭載するガルバルディβのように汎用機でも時折見られる。

三連式多目的カメラモジュールを搭載するザク・フリッパー。ジオン公国軍最高峰のカメラであった。

百式のメイン・カメラはIDEシステム（画像管理型符号化装置）を装備した。

アッガイは踵にアンクルフリュイド（流体）センサーを搭載する。水中用のソナーも搭載するようだ。

©創通・サンライズ

アフター・ウォー ガイド

バルチャー

Organization of A.W.

アフター・ウォーの組織・勢力

戦後世界を闊歩する廃品回収業者

バルチャーとは第7次宇宙戦争後（A.W.）の世界において、大戦中の軍事施設跡などを巡り、兵器や電子部品を回収・売買する者たちを指す。多くのバルチャーは自衛／物資輸送用の陸上戦艦や、回収作業／自衛用のMSを保有し、前大戦の遺物の回収と売買を行いつつ、広範囲を渡り歩いている。

バルチャー誕生の背景には、戦後世界における各種物資の需要と無政府状態がある。

第7次宇宙戦争の結果、かつて100億を誇った世界人口は100分の1以下にまで激減した。だが、生き残った人々は各地で復興を進め、地域によっては大規模な交易都市や小国家が誕生した。この際、多くの復興資材が必要とされ、中でも近代的インフラや機材に必須となる電子部品の需要は大きかった。そこで、放棄された軍事施設などから電子部品を調達するバルチャーの重要性が高まっていった。

戦後の無政府状態もバルチャー誕生の要因となっている。第7次宇宙戦争末期のコロニー落とし作戦の末、旧連邦は統治能力を喪失し、地球は無政府状態に陥った。これに伴い、世界各地の旧連邦系施設は多くが放棄されたため、バルチャーたちは自由に兵器や電子部品などを回収できたのである。

また、無政府状態と兵器拡散の結果、MSを使用した強盗が多発したことも、バルチャーの必要性を高めた。復興地域が自衛のために、バルチャーから兵器を購入するケースが増加したのだ。

しかし、重要な役割を担うはずのバルチャーが、疎まれることも多い。そもそも「バルチャー（=ハゲタカ）」と呼ばれる時点で、ネガティブなイメージを持たれており、少なからず侮蔑の対象になっている。

バルチャーが疎まれる第一の理由は、略奪行為を働く一部バルチャーの存在にある。バルチャーが装備する陸上戦艦やMSは略奪を容易とし、小国家までが略奪対象となった。すべてのバルチャーが略奪を働くわけではないが、一部の悪行がバルチャー全体の立場を悪くしているのだ。また、バルチャーが回収したMSが、強盗団や悪質なMS乗りに流出しかねない点も、復興地域の不興の原因となっている。

功罪半ばするバルチャーだが、遠からず消滅する可能性もある。放棄された軍事施設が有限なこともあるが、工業力の向上に伴い、バルチャーの回収物は需要が低下してしまう。さらに、バルチャーが非合法化される可能性もある。

バルチャーは、A.W.初期のわずかな期間のみ存在を許された後、消えゆく運命にあると言える。

（ルアン・リュペア　A.W.0024）

関連ファイル

フリーデン	X-01-16
フリーデンII	X-01-17
A.W.の陸上戦艦	X-01-18
ジャミル・ニート	X-02-03
第7次宇宙戦争と地球圏の荒廃	X-03-01
フリーデン対ザコット一味	X-03-04
A.W.0015の世界	X-03-18

FILE PREVIEW

X-03-18　A.W.0015の世界

第7次宇宙戦争の終結から15年が経過した地球では、各地で復興の兆しが見え始めていた。それを支えたのがバルチャーたちであり、彼らの回収したパーツによって人々はかつての繁栄を取り戻し始めた。

Illustration by TOMOTAKE KINOSHITA

仕事内容

バルチャーはA.W.における廃品回収業者のいちカテゴリーであるが、回収対象は旧連合関連施設の兵器や電子部品が中心である。回収物は修理を施し、あるいはそのまま復興地域や交易商人、流れメカ屋などに売却する。特定地域に留まらないのは、こうした業務形態による。陸上戦艦を持つため、物資輸送や人間の移送なども請け負うようだ。

■ 放置物の回収

放棄された旧連邦の軍関連施設において、完品のMSやその残骸、電子部品などを回収する。動力施設（発電所）は宝の山とされるが、部品を抜き取ると暴走や爆発の危険があるため、回収目標には選ばれにくい。

大型回収物の運び出しや作業の効率化のため、MSが使われることが多い。

■ 回収物の売却

回収した物品は、基本的に売却される。戦後独立国家に代表される復興地域で直接売却する場合もあれば、交易商人に売り渡す場合もある。特にMSは、修理や組み立てによって付加価値を高めた後、売却するようだ。

MSは高額取引される商品の代表。高値を付ける地域に持ち込むこともある。

■ 略奪

悪質なバルチャーが行う強盗行為。陸上戦艦やMSで復興地域を襲い金品を奪うが、返り討ちに遭うケースも散見される。高価なMSや物品を持つ、他のバルチャーを襲う例も枚挙に暇がない。

バルチャー同士の戦闘の主因は略奪。互いにMSを持つ場合、激戦となる。

社会的地位と関係

復興期にありながらも無政府状態の地域が多い地球にとって、武装した廃品回収業者と言えるバルチャーは重要な存在である。だが、略奪行為を働くバルチャーの存在や、実態把握の難しさなどから、一般的な評価は高くない。一般社会との接点は、回収物品の売買にほぼ限られるが、同業者のバルチャーやフリーのMS乗りと深い関係を築いている。

■ 微妙な社会的地位

悪質なバルチャーがクローズアップされがちなため、一般的なバルチャーも差別されることがある（武装勢力というだけで脅威である）。それでも交易上有用なため、復興地域では受け入れられる。

発展した交易都市でも、通常は武装さえ封印すれば入港が認められる。

■ バルチャー間の関係

ジャミル・ニートに代表される良心的なバルチャーは、他の良心的バルチャーと協調関係を築いており、互いに支援することもある。略奪行為に手を染める悪質なバルチャーは、利益目的の場合のみ他組織と手を組んだ。

特殊な発光弾で意思を示すバルチャーサイン。バルチャーの共通言語と言える。

■ MS乗りとの関係

艦載MSの少ない、あるいは持たないバルチャーは、フリーのMS乗りを雇う場合がある。特に戦闘が予想される場合、雇うことが多い。特定のバルチャーと親しくするMS乗りの中には、事実上の専属となった者もいる。

バルチャー同様、質は様々だが、契約期間中は命令に忠実な者が多いようだ。

代表的なバルチャー

下に紹介しているのは、A.W.0015時の著名な（または悪名高い）バルチャーである。北米を主な活動地域としたこと、陸上戦艦を保有すること、専属のMS部隊を配備したことなどが共通点だった。バルチャーを統括する組織は存在しないようだが、ジャミル・ニートやローザ・インテンソたちのように、互助関係を構築した例もある。

下に紹介していないバルチャーとしてグリーツ・ジョー（左）が有名。ジャミル、ロッソ、グリーツ、ローザは対アルタネイティヴ社戦で共闘した。

■ ジャミル・ニート

アルプス級陸上戦艦フリーデンを母艦とするバルチャー。最終的には4機のガンダムを配備した。バルチャー稼業だけでなく、ニュータイプの保護に奔走したことでも知られる。

フリーデン
アルプス級陸上戦艦。荷物デッキを持つ。新連邦軍のバンダールII世に衝突、相討ちとなった。

ジャミル・ニート
旧連邦軍でガンダムXを駆った元ニュータイプ。バルチャーとしても良心的だった。

■ ロッソ・アラマント

ロッキー級陸上戦艦を母艦とするバルチャー。赤いカラーリングのジェニスを3機配備する。ジャミルの求めに応じて、対アルタネイティヴ社戦に参加している。

ロッキー級陸上戦艦
6機のMSを搭載可能な陸上戦艦。グランディーネの荷粒子光弾を回避し、生き残った。

ロッソ・アラマント
大物バルチャーらしく、ジャミルすら敬語を使う相手だが、ユーモアも持ち合わせていた。

■ ローザ・インテンソ

ピレネー級陸上戦艦を母艦とする女バルチャー。ピンクに塗装された地上用セプテム3機を配備している。対アルタネイティヴ社戦に参加したバルチャーのひとりである。

ピレネー級陸上戦艦
最小クラスの陸上戦艦。最大搭載MS数は6機。ピンクのカラーリングが特徴である。

ローザ・インテンソ
ジャミルに好意を寄せる女バルチャー。ローザII世に後を譲ったと言われる。

■ ザコット・ダットネル

トリエステ級水陸両用艦を母艦とするバルチャー。多数のドートレスHMファイヤーワラビーから成る「炎の時計部隊」を配備していた。フリーデンとの戦闘で壊滅した。

トリエステ級水陸両用艦
地上／水上／水中で行動可能。艦首にMS用デッキ、艦尾にサルベージ用のクレーンを持つ。

ザコット・ダットネル
利益のためには手段を選ばないバルチャー。対フリーデン戦で死亡したようだ。

シーバルチャーとオルク

海底に沈んだMSや兵器のサルベージを生業とするのがシーバルチャーである。サルベージした物品は交易商人が売買する。オルクは、シーバルチャーや沿岸都市などを襲撃、略奪する武装集団だが、サルベージも行っている。

コロニー落とし作戦や戦争末期の混乱の中、海に消えた兵器も多い。それを回収するのがシーバルチャーで、兵器の修理・改修技術を持つ者もいる。

ルマーク・カウト（左）
ドーザ・パロイ（右）
ルマークはセインズアイランドを根拠地とするシーバルチャー。ドーザは海中探査システム「Dナビ」製造のためイルカを捕獲していたオルク。

ドーシート（左）
ドーシートIII（右）
共にオルクが使用した旧連合軍の水陸両用MS。ドーシートはドーザー味が、ドーシートIIIはマーカスー味が装備。

MORE INFO!

MS乗りとその活動

MS乗りはMSを所有するパイロットで、特定組織に属さない者が多い。バルチャーなどに雇われる、一種の傭兵である。野盗化した者もいるため、バルチャー同様、差別されることもある。

個人で略奪行為を行ったクロッカ、野盗化したMS部隊を率いたジェノス・クライシスなどが、MS乗りの評価を落とした。

エニル・エル
ザコットー味と行動を共にしていたフリーのMS乗り。当初、ガロード・ランへの復讐に執着したが、後にフリーデンに合流した。

ウィッツ・スー
ガンダムエアマスターを所有するフリーのMS乗り。家族のためにMS乗りになったが、最終的にはフリーデン専属になった。

ウィッツと同じく、フリーデン専属となったロアビィ・ロイ。ガンダムレオパルドを所有。

機動戦士ガンダム00

TIMELINE

AD 2307~2308

CB殲滅作戦、発動

世界の歪みを正し、人々の間から紛争を根絶するためならば、自らが咎を負うことを躊躇しなかったCB。一方、彼らを非道なテロリスト集団と断罪した国連軍はついにCB殲滅作戦を実行に移す。多くの命を呑み込んだ最終決戦の果てに、世界に変革は訪れたのだろうか……。

AD 2308

エクシアのトランザムシステムが発動

ミハエル・トリニティのガンダムスローネツヴァイを強奪したアリー・アル・サーシェスに戦いを挑んだ刹那・F・セイエイは、戦いを通じて事の真相に思い至った。予期せぬサーシェスの登場は事件の裏で糸を引いている人物がいることを示しており、その人物こそが真に倒すべき世界の歪みであることに気付いたのだ。とはいえ戦闘中の思案は剣戟の鈍りにつながり、武器を弾き飛ばされたエクシアはスローネツヴァイの前に反撃の手段を失ってしまう。だがその時、刹那すら予想しなかった事態が生じた。オリジナルのGNドライヴに秘められた機能、トランザムが突如発動。圧倒的な反応速度によってサーシェスを退けた刹那は、辛うじて窮地を脱することができたのだった。

「TRANS-AM」という文字がメインパネルに表示されるや、驚く刹那を尻目に、エクシアは凄まじい機動性を発揮し始めた。

変貌を遂げたエクシアの能力は圧倒的であり、さしものサーシェスも悔し紛れの捨て台詞を残して、撤退するしかなかった。

勝ったとはいえ事情がわからず呆然とする刹那。するとイオリアの残したメッセージが表示され、その謎を明かしたのだった。

イオリアのメッセージはプトレマイオスでも受信され、他の3機のガンダムもトランザムが発動可能であることが判明。反面、トランザム終了後は残存GN粒子不足から機体性能が極度に低下してしまう問題点もわかった。

AD 2308

国連軍、CB殲滅作戦「FALLEN ANGELS」発動

トリニティの殲滅に成功した国連軍は、続いてCBを一掃させる軍事作戦「FALLEN ANGELS」を発動。セルゲイ・スミルノフやパトリック・コーラサワーなどの精鋭を中心としたジンクス部隊が、ラグランジュ1に停泊していたプトレマイオスを急襲した。苦戦するキュリオスとヴァーチェを支援すべく、ロックオン・ストラトスはGNアーマーを装着したデュナメスで出撃。一時的にジンクス部隊を後退させることに成功する。しかしロックオンの目は目前のジンクス部隊を追っていなかった。愛する家族を失う原因を作ったサーシェスが搭乗するスローネツヴァイの姿を捉えたのである。仇敵との決着をつけるため、ロックオンは傷の痛みを押してサーシェスに狙いを定めた。

サーシェスを認めたロックオンは単独で追尾を開始。愛する両親と妹の仇とばかりに接近戦を開始した。

CBをテロリスト呼ばわりするサーシェスに対し、怒りを露わにしたロックオンはさらなる猛攻を仕掛けようとするのだが……。

先の戦いで受けた負傷から右方向が見えないという隙を突かれ、反撃を受けたデュナメスは半壊してしまう。

デュナメスから離れたロックオンは、GNアーマーのキャノン砲に照準を同調させると、最後の力を振り絞ってスローネツヴァイを狙撃。その後、懐かしい地球を目に焼き付けながら、虚空に命を散らせたのだった。

AD 2308

剣戟、サーシェスと対峙。スローネツヴァイの前に苦戦を強いられる。

アレハンドロ・コーナー、ヴェーダ掌握のためCB月面施設に潜入。コールドスリープ中のイオリア・シュヘンベルグを射殺する。

イオリアの生命活動停止を引き鉄として、トランザムシステムが発動。

トランザムを発動したエクシア、スローネツヴァイを圧倒。

国連軍、「FALLEN ANGELS」発動。ラグランジュ1に位置するプトレマイオスを強襲する。

ガンダムマイスター、応戦を開始。

ロックオン、サーシェスを発見。乗機を大破させられながらも、最後の一撃でサーシェスを撤退に追いやる。

ロックオン、戦死。

MORE INFO!

トランザムシステムの封印

トランザムシステムとは、機体内部に蓄積された高濃度GN粒子を全面開放することで、機体スペックを一時的に3倍以上に高める機能である。ただしこのシステムの存在は、ガンダムマイスターはおろかCBの戦術予報士にも明かされておらず、使用するにはGNドライヴの開発者であるイオリアの許可（つまりはイオリアの生命活動停止）が必要だった。実はトランザムシステムは、ヴェーダが何者かによって破壊もしくは掌握され、CBの計画遂行が困難になった時に、これを補完するための最終手段として用意されたものだった。だからこそ絶大な能力を有しながらもその存在は極秘とされ、強固な封印の下に眠り続けていたのである。

トランザムを発動した機体は赤く発光し、残像を生み出すほどの高速機動が可能となる。

のちにシステムは解析され、艦船に対するトランザム発動も実施できるまでになった。

NEXT PAGE

AD 2308

CBと国連軍の双方に甚大な損害が発生

ロックオンを失い、悲嘆に暮れるCBに対して、態勢を立て直した国連軍が再度攻撃を加える。激戦の中、アレハンドロが駆るMAアルヴァトーレの砲撃でプトレマイオスが大破。人革連特務部隊と交戦したキュリオス、ジンクス部隊の猛攻を受けたナドレも戦闘不能に陥ってしまう。しかし国連軍側もジンクス部隊がほぼ壊滅しており、両者の戦いは混迷の度合いを増していく。それでもなお刹那は戦いを続行し、世界の歪みを断とうとしていた。

GNドライヴ［T］を7基も搭載したアルヴァトーレが主砲を発射。それに気付いたプトレマイオスは緊急回頭を試みるが……。

辛うじて直撃は免れたとはいえ損害は甚大であり、推進機関をはじめとする重要ブロックが機能停止に陥ってしまった。

さらに防衛戦を突破した1基のジンクスが接近を図り、至近距離からブリッジを攻撃しようとした。

スメラギ・李・ノリエガをはじめとする数名のクルーは強襲用コンテナにいたために難を逃れたが、最後までブリッジで操艦を担当していたクリスティーナ・シエラとリヒテンダール・ツエーリは命を落としている。

AD 2308

刹那、アレハンドロと交戦

アレハンドロこそが世界の歪みの元凶と確信した刹那は、GNアーマーを装備したエクシアで果敢に戦いを挑む。強大なパワーのアルヴァトーレとその中核のMSアルヴァアロンの攻勢は凄まじく、たちまちエクシアは中破に追い込まれてしまう。それでもガンダムマイスターとしての信念を貫く刹那は死力を尽くしてアルヴァアロンを撃破。これで元凶は排除したはずだった。しかしそんな刹那の前にフラッグカスタムIIを駆るグラハム・エーカーが立ちはだかる。

GNアーマーを失いながらも接近戦を敢行したエクシアは、アルヴァトーレに致命傷を与えたが……。

それで戦いは終わったわけではなく、アルヴァトーレの核であるMSアルヴァアロンがその姿を現した。

強敵を前にしても世界の歪みを正そうという刹那の信念は曲がらず、死闘の果てにアルヴァアロンとアレハンドロに引導を渡している。

戦いの推移ではなくガンダムとの戦いに固執するグラハムのエゴに、世界に歪みを生じさせる原因を見て取った刹那は最後の戦いを敢行。勝負は相討ちに終わり、行動不能となったふたりの機体は深遠に消えたのだった。

AD 2308

「FALLEN ANGELS」終了

いつ果てるとも知れない激戦にもついに終止符が打たれ、「FALLEN ANGELS」はCBトレミーチームの壊滅という形で幕を閉じた。だがCBの軍事介入によって三大勢力による支配体制は終わり、地球連邦の名の下に世界がひとつにまとまったのはCBの成果である。その意味ではCBは世界に変革をもたらしたと言えよう。しかしこの変革は真にCBが望んだ形なのだろうか。その答えは4年後の西暦2312年にもたらされることとなる……。

地球連邦の誕生と連邦平和維持軍の編成など、戦後世界はこれまでからは大幅に変革した姿となり、新たな一歩を踏み出したかに見えた。

しかしその変革は本当に待ち望んだものなのか否か。その答えを知るべくCBの面々は組織再建を急ぐ……。

AD 2308

国連軍、プトレマイオスへの攻撃を再開する。

ジンクス部隊を率いたアルヴァトーレがプトレマイオスを攻撃。

プトレマイオス大破。クリスティーナ・シエラとリヒテンダール・ツエーリの両名、戦死。

アレルヤ・ハプティズム、人革連特務部隊と交戦。セルゲイとソーマ・ピーリスを圧倒するが、戦闘不能に陥る。

ティエリア・アーデ、ジンクス部隊と交戦。コーラサワーを撃退するが、戦闘不能に陥る。

刹那、アレハンドロと対峙。苦戦の末にアルヴァアロンを撃破する。

グラハム、刹那の前に出現。フラッグカスタムIIでエクシアに挑み、相討ちとなる。

刹那、半壊したエクシアと共に消息を絶つ。

「FALLEN ANGELS」終了。戦闘によってCBトレミーチーム、壊滅。

以後、地球連邦の名の下に世界の再編が進む。

MORE INFO!

変革していく世界

「FALLEN ANGELS」終了後、世界はその様相を大きく変えることとなった。CBとの戦闘に勝利した三大勢力は以後も結束を解くことなく、戦後4年を経て地球連邦に統合。国連軍は地球連邦平和維持軍へと移行した反面、各国軍隊は順次解体された。さらに各国で開発されていたMSは規格統一され、基本的にGNドライヴ［T］を搭載したジンクスの量産化で合意。これによって世界の意思は統一へと向かい、連邦軍はかつてのCBを凌ぐほどの戦力を保有することとなったのである。とはいえ一部の国家や組織は連邦への統合に反対し、反連邦活動を展開。世界から紛争が撲滅することはなかった。

この現状を前にしてCBの残存勢力も手をこまねいていたわけではない。ヴェーダとのリンクが途絶し、組織としての活動力が低下したとはいえ、エクシア以外のGNドライヴの回収に成功したCBは新型ガンダムの開発に着手。組織再建に向けて、人目を忍んでの活動を行っていたのである。

地球連邦には328もの国家が参加しており、世界は連邦の名の下に統一されたように思われたのだが……。

世界の変革にリボンズ・アルマークを中心とした組織が関係していることを知る者は、この時点では皆無である。

【マグネット・コーティング】ろくなテストもしていない新技術ということだったが、モスクの理論は実戦で見事に実証され、ガンダムは飛躍的な反応速度を示すこととなった。ちなみに理論的な部分をよく理解できなかったブライト・ノアは「油を差すようなものだ」と説明している。

【マゼラ・トップ】マゼラ・トップの飛行性能が格段に優れていれば、マゼラ・アタックは航空機と戦闘車輌の特性を両立させた超戦車となったことだろう。だが実際には砲塔を兼ねるマゼラ・トップに大推力スラスターを搭載できるはずもなく、夢は夢のままで終わっている。

マーシー
MARSHY

マッド・アングラー隊に所属するMSパイロット。ゴッグに搭乗し、コーカ・ラサと共にベルファスト基地で補給を受けるホワイトベースを急襲。接近するGブルに体当たりを仕掛けようとしたのだが、メガ粒子砲の一撃で頭部を撃ち抜かれて敢えなく戦死している。

【マーシー】見たこともない重戦車の接近に気付いたマーシーは、不用意に襲い掛かった。それがGブルのメガ粒子砲を正面から受けることとなってしまう。

マーチ
MARCH

ホワイトベース隊との合流を急ぐミデア部隊を襲撃したジオン公国軍のMSパイロット。ヒート・ロッドの影響で脚部に異常を来たしたガンダムと空中戦を繰り広げるが、Gファイターとの連携攻撃に翻弄されてしまう。そして最後には地上に落とされたところをコクピットにビーム・サーベルを突き立てられてしまった。主な搭乗機はグフ。

【マーチ】相手がガンダムだと気付いたマーチは一旦は気後れしたものの「どのみちパワーは落ちてんだ」と戦いを挑んだ。だがGファイターをSFS（サブ・フライト・システム）代わりに利用するアムロに敗れた。

マグネット・コーティング
MAGNET COATING

地球連邦軍技術士官のモスク・ハンが独自に開発した、MSの駆動系の反応速度を向上させる技術。関節駆動に用いるモーター・システムのレスポンス向上のため、モノポールを主とする磁気成分で可動部分をコーティングし、フィールド・モーターにおける機械的な干渉を打ち消す。いわば「駆動部分を電磁気的に包み込むことで機械的な干渉を打ち消し、理論上は反応速度を無限大まで速くすることができる」という代物である。ニュータイプ能力に目覚めたアムロ・レイの反応についていけなくなったガンダムだが、マグネット・コーティングを施されたことで以前にも増した反応速度を示すようになった。一説には姿勢転換に要する時間を27%短縮したという。この結果、マグネット・コーティング技術は一年戦争後も継承され、さまざまなMSに導入された。またジオン公国軍でも独自に研究していたようで、終戦直前に開発された機体（アクト・ザク）に、マグネット・コーティング技術が導入されていた。

マ・クベ
M'QUVE

キシリア・ザビの懐刀と評されたジオン公国軍士官。地球侵攻作戦後、資源採掘基地オデッサの基地司令となり、軍需物資の採掘と輸送を一手に担っていた。ただし機を見るに敏なマ・クベは戦後処理も視野に入れており、採掘資源の一部をキシリアに引き渡すことで彼女の信頼を勝ち得た。その一方、前線の兵士に対する思慮は薄く、殊にキシリア派に属さない者には冷遇をもって処したとされている（一部兵士から「前線に立つ兵士の気持ちがわかっていない」と批判されたほどである）。とはいえ政治的手腕に長けるマ・クベは公国軍に必要不可欠な存在であり、地球連邦軍将官エルランと内通するなど、優れた策謀家として活躍した。ただしオデッサ作戦の敗戦後はグラナダに移り、第一線から身を引いている。そしてソロモン要塞陥落後、ミネバ・ラオ・ザビと共にアクシズに移ったと言われる（異説としてテキサス・コロニーでガンダムの撃破を目論むが、返り討ちに遭ったというものもあるが、真偽の程は定かではない）。主な搭乗機はギャン。

【マ・クベ】任務の傍ら、骨董品蒐集に熱を上げていたマ・クベ。特に北宋時代の白磁の壺がお気に入りだったようで、執務室に飾っていたほか、逸品をキシリアに献上している。

マサキ
MASAKI

ホワイトベースの看護兵。医療班を取りまとめるサンマロの補佐役として、忙しく走り回っていた。サイド7出港以来、激戦の只中に身を置くことが多かったホワイトベースだけに負傷者はひっきりなしであり、マサキは休む間もなかったに違いない。

【マサキ】ソロモン戦で負傷したハヤト・コバヤシを心配するフラウ・ボゥの後ろで、看護に忙殺されるマサキ（右）。目立つ存在ではなかったものの、彼女の技量はなくてはならないものだった。

マゼラ・アタック
MAGELLA-ATTACK

一年戦争時にジオン公国軍が運用した大型戦車。地上におけるMSの補助兵器として開発され、大量生産された。車体部（マゼラ・ベース）とVTOL機能を有する砲塔部（マゼラ・トップ）で構成され、通常は合体した状態で運用されるが、分離後、それぞれが独自に行動することも可能である。そのため地球連邦軍が開発した61式戦車に比べて生還率が高く、公国軍の独自性が反映された兵器の代表格である。

【マゼラ・アタック】大量に配備されており、ジオン公国軍における地上戦力の一端を担った。ガルマ・ザビはドップとの両面攻撃に用い、地上に降下したホワイトベースに対して攻撃を仕掛けている。

マゼラ・トップ
MAGELLA-TOP

マゼラ・アタックの砲塔を兼ねるVTOL機。機体下部にホバー・エンジンを搭載しており、本体から分離後は空中飛行や静止が可能となる。またマゼラ・アタックの主砲（175mm無反動砲）も使用可能である。ただし飛行しながらの大型砲による射撃は機体の安定が維持しにくく、命中精度は芳しいものではない。また飛行時間が極端に短く、機動性も劣悪だったため、あくまで脱出用として用意されたものなのだろう。

マゼラ・トップ砲
MAGELLA-TOP CANNON

陸戦用MSが運用した大型砲。マゼラ・アタックの主砲（175mm無反動砲）をほぼそのままの形で流用したものであり、砲身を保持するためのグリップや給弾装置が増設されているものの、基本的な外観はそのまま残っている。ちなみにこれは正規の武装ではないが、物資が不足する前線では使えるものは何でも使わなければならず、苦肉の策の急造兵器なのである。

【マゼラ・トップ砲】急造の転用兵器とはいえ、火力のみを比較するならば、ザクⅡの携行兵装の中でも最高レベルの破壊力を有している。ホワイトベースを襲撃したランバ・ラルは、マゼラ・トップ砲を用いてホワイトベースのエンジンに多大なダメージを与えている。

マゼラ・ベース
MAGELLA-BASE

マゼラ・アタックの車輌部分をなすユニットで、無限軌道による高い走破性を発揮する。マゼラ・トップの分離後も独自行動が可能だが、マゼラ・アタックの主兵装はマゼラ・トップ側に設置されている（マゼラ・ベースの固定兵装は3連装35mm機関砲のみ）ので、分離後は戦闘能力が格段に低下してしまう。さらにドッキングには専用設備を必要とするため、緊急時以外にはマゼラ・ベース単体で行動することはなかった。

【マゼラ・ベース】マゼラ・トップが分離するのはマゼラ・ベースが被弾した時がほとんどであり、被弾したマゼラ・ベースは放置されることが多かった。ただし一部は改修され、ザクタンクの下半身パーツ等に流用されている。

【マゼラン級宇宙戦艦】サラミス級の艦体色が薄紫系で統一されていたのに対し、旗艦としての機能を担うマゼラン級は、識別のために異なるカラーリングが存在した。主なカラーリングとしてはワッケイン座乗艦（緑系統）、レビル座乗艦（グレー系統）などが挙げられる。

【マッド・アングラー隊】艦隊要員やMSパイロットの他に特殊工作員を擁していたマッド・アングラー隊。そのため連邦軍基地ジャブローの位置を特定するや独自に潜入工作を決行。さらにMS開発ラインの破壊を試みるといった隠密行動を実施している。

マゼラン級宇宙戦艦
MAGELLAN-CLASS SPACE BATTLE SHIP

地球連邦軍が建造・配備した宇宙戦艦。U.C.0070年代の軍備増強計画によって建造され、以後、U.C.0080年代前半まで、連邦宇宙軍艦隊の旗艦として運用された。全長300mを超える巨体に連装メガ粒子砲が7基設置され、対艦砲撃力の優秀さには定評がある（これは連邦軍が標榜する大艦巨砲主義に則ったコンセプトである）。だがその反面、ミノフスキー粒子散布環境下での有視界戦闘には対応しておらず、MS運用能力にも欠けていた。そのため一年戦争緒戦では、多数のMSを投入したジオン公国軍から格好の標的とされ、多くが宇宙の藻屑となっている。その後、巻き返しを図った連邦軍は艦隊戦力再編制のためにマゼラン級を建造したが、その際にもMS運用能力は付加されていなかった。そのため同時期に就役したサラミス級巡洋艦の系譜がU.C.0150年代まで続いたのに対し、マゼラン級はU.C.0080年代前半を最後に姿を消している。

マチルダ・アジャン
MATILDA AJAN

地球連邦軍ミデア輸送部隊の指揮を務める女性士官。レビル将軍の勅命を受け、ホワイトベースの補給とメンテナンスを行った。連邦軍上層部の対応に不満を抱いていたホワイトベース乗員からは理解のある人間と見なされ、多くのファンを獲得した。到着の折、いつもはクールなカイ・シデンがマチルダと記念写真を撮ろうとしたことからも、彼女の人気の高さが窺える。アムロ・レイもマチルダに憧れたひとりであり、彼女からこれまでの戦果を賞賛されたことに頬を赤く染めていた。だがオデッサ作戦の直前、修理の完了したホワイトベースをドムから守ろうとしてミデアで突進。アムロの眼前でコクピットごと潰されてしまった。ちなみにジャブロー基地で任務に就いているウッディとは婚約関係にあったのだが、ふたりの結婚式が挙げられることはなかった。

【マチルダ・アジャン】マチルダのような女性が戦場に居る理由を問うアムロは、「戦争という破壊行為の中で唯一生産に携わる補給任務を誇りにしている」との答えに目を丸くした。生き抜くことに精一杯の彼は大局を見据えて戦うマチルダの言葉に感動し、以後、自分なりの戦う理由を見い出そうとあがくようになった。

マッシュ
MASH

ジオン公国軍のMS小隊「黒い三連星」に所属するMSパイロット。隻眼というハンデがあるものの、数々の修羅場を潜り抜けた経験に裏打ちされた、優れた操縦センスを有している。小隊長のガイア、同僚のオルテガとの連携攻撃でも彼の技量は遺憾なく発揮され、必殺の「ジェット・ストリーム・アタック」は回避困難な技として恐れられていた。しかしガンダムとの戦闘では、得意とする「ジェット・ストリーム・アタック」を破られた上にコクピットを貫かれてしまった。主な搭乗機はドム。

【マッシュ】仲間との連携攻撃に絶対の自信を持っていたマッシュ（右から2番目）。しかし対戦に乱入してきたミデアに妨害され、「黒い三連星」の中で最初の犠牲者となっている。

マッド・アングラー級潜水母艦
MAD-ANGLER-CLASS SUBMARINE

ジオン公国軍潜水艦部隊「マッド・アングラー隊」が運用した大型潜水母艦。地球連邦軍キャリフォルニア・ベースで開発されていた大型潜水母艦を接収した公国軍が改修したもので、対地／対空／対艦戦闘能力のほかにMS運用能力が付与された。そのため水中用MSやMAの母艦として利用され、公国軍の制海権獲得の中心的な役割を果たした。ちなみに複数の同型艦が存在したとされるが、その中でも一年戦争後半にシャア・アズナブルが転属した艦（同級の1番艦であるマッド・アングラー）がよく知られている。

マッド・アングラー隊
MAD-ANGLER CORPS

ジオン公国軍突撃機動軍地球攻撃軍海洋部隊に所属する潜水艦部隊。海上や海中および沿岸部での作戦行動に従事し、連邦軍の海洋輸送ルート分断に多大なる戦果を挙げた（公国軍が長期に亘って制海権を保有し続けたのは、マッド・アングラー隊の功績が大きいとされる）。またガルマ・ザビ戦死の責を問われたシャア・アズナブルが転属した部隊としても知られる。旗艦はマッド・アングラー級潜水母艦。ほかにユーコン級潜水艦を複数保有し、ゴッグやズゴックといった水中用MSも多数配備されている。

マリガン
MULLIGAN

マッド・アングラー隊に配属されたシャア・アズナブルの副官となった若き公国軍士官。ホワイトベースを追うシャアがザンジバルで宇宙に上がって以降も副官を務め、一年戦争終盤の戦いをシャアと共にした。線の細いエリートで実戦経験に乏しいらしく、一時の感情からシャアの意とは異なる行動を取ることが多かった（上官の仇討ちに逸るデミトリーの出撃を独断で許可したり、キシリアからの電報に気の利かない返答をしたりしている）。これに対してシャアは叱責するだけに留めており、マリガンの成長を見守ろうとしていたようである。だがゲルググで出撃したシャアに代わってザンジバル級の指揮を執っていた折、ホワイトベースからの直撃を受け、艦と運命を共にしている。

【マリガン】シャアの元副官のドレンが叩き上げの軍人であったのに対し、マリガンは正反対のタイプだった。だからこそシャアは彼の成長に期待し、苦言を口にしながらも見守ったのではないだろうか。

【マッド・アングラー級潜水母艦】怪獣の頭部を横したような艦首が特徴で、眼にあたる部分がメイン・ブリッジとなる。ただしこの仕様がベースとなった連邦軍潜水母艦から受け継がれたものかどうかは判然とせず、公国軍独自の改修とも考えられる。

[み]

ミデア
MIDEA

一年戦争時に地球連邦軍が運用した輸送機で、前期型ミデアと呼ばれる場合もある。機体中央部に着脱式大型コンテナを搭載し、160tものペイロードを誇る。それだけの重量を支えるためには主翼上部と翼端に計6発のジェット・エンジンを、さらに機体下部には5基のローターを必要とする。それでも最高速度はマッハ0.82にしか及ばなかった。またペイロードを稼ぐために武装は最低限のもの（対空機銃）しか用意されておらず、単機での飛行は危険極まりないと言わざるを得ない。そのため輸送任務では編隊を組んで移動することがほとんどだった。北米大陸を横断するホワイトベースに補給物資を搬送する任務を言い付かったマチルダ・アジャンのミデア部隊も、複数の機体による編隊を組んで移動した。

【ミデア】連邦軍第136連隊所属のマチルダ隊によって運用された。黒い三連星の猛攻からホワイトベースを守るため、マチルダの指示で戦闘に割り込み破壊されてしまう。

ミネバ・ラオ・ザビ
MINEVA LAO ZABI

ドズル・ザビとゼナ・ザビの間に生まれた少女。ジオン公国の敗北によってザビ家の血は途絶えてしまったため、唯一ミネバだけがザビ家の血筋に連なる者となる。戦争終結後の時点でまだ赤子だったミネバは、公国軍残党に連れられてアクシズに移動した。

【ミネバ・ラオ・ザビ】母ゼナに連れられて、ア・バオア・クーから脱出した赤子のミネバは、マ・クベの救援艦隊によって救助された。

GOODS

バンダイ

マスターグレード Ver.Ka

カトキハジメ氏が監修したハイクオリティシリーズ

バンダイ・ホビー事業部が手掛けるガンプラの中でも、造型や可動にこだわったハイクオリティなシリーズとして1995年に誕生したマスターグレード（以下、MG）。1996年にリリースされたMSZ-006 Zガンダムから、プラモデル用の設定制作をメカニック・デザイナーであるカトキハジメ氏が担当するようになるが、カトキ氏のこだわりを全面に押し出すことで立体解釈の幅の拡大を図ろうと新たなブランドが立ち上げられた。それが「Ver.Ka」シリーズである。

Ver.Kaでは、造型はもとより、パッケージや解説書に至るあらゆる部分でカトキ氏のアイディアやこだわりをフィードバックし、それをバンダイの高い技術で再現する方式が採られた。「頭の中にCADがある」かのようなカトキ氏の精密なデザインと、バンダイが得意とするギミック面との高次元の融合が本ブランドの特徴であり、両者が幾度もやり取りを行うことで、複雑な変形と美しいフォルムが両立したのである。

Ver.Kaというブランド名自体は、ガレージキットに使用されたのが最初だが、MGシリーズでは、2002年12月に発売された「RX-78-2 ガンダムVer.Ka」が初である。その後、「XXXG-01W ウイングガンダムVer.Ka」や「RB-79 ボールVer.Ka」など、宇宙世紀／宇宙世紀以外の多数の商品をラインナップ。模型化を進めながら設定を仕上げていった『機動戦士ガンダムUC』の主人公機・RX-0 ユニコーンガンダム（2007年発売）や、非常に長いトライアルの末、ようやく発売に漕ぎ着けた「LM312V04 ヴィクトリーガンダム」（2009年12月）などは、バンダイにとっても印象深い機体だと言う。

ガンプラ30周年を経た2012年以降も、複数機のトライアルが進行しているとのことなので、今後の展開にも期待したい。

RX-78-2 ガンダム Ver.Ka

発売年：2002年　定価：3,360円（税込）
作品：『機動戦士ガンダム』

記念すべきMG版Ver.Kaの第1弾商品。メインカメラ、ビーム・サーベルといった部分をクリアパーツで再現したほか、コアファイターも新規造形し、コアブロックへの完全変形を可能にしている。ビーム・サーベル（×2）、ビーム・ライフル、ハイパー・バズーカ、シールドが付属する。

武装設置時

武装マウント時

A RX-0 ユニコーンガンダム Ver.Ka

発売年：2007年　定価：5,250円（税込）
作品：『機動戦士ガンダムUC』

『機動戦士ガンダムUC』第1弾商品。ユニコーンモードからデストロイモード（NT-D発動モード）への変形機構を有する。

B MSN-06S シナンジュ Ver.Ka

発売年：2008年　定価：7,350円（税込）
作品：『機動戦士ガンダムUC』

フル・フロンタル搭乗機。多層装甲パーツが再現されたほか、モード変更時にはバックパックが変形するギミックが採り入れられた。

C XXXG-01W ウイングガンダムVer.Ka

発売年：2004年　定価：3,675円（税込）
作品：『新機動戦記ガンダムW』

Ver.Kaデザインモデルの第2弾商品。バード形態への変形が可能で、脚部の機構などは本キット用に新たに設定し直されている。

D LM312V04 ヴィクトリーガンダム Ver.Ka

発売年：2009年　定価：3,990円（税込）
作品：『機動戦士Vガンダム』

ヴィクトリーガンダムの特徴である分離・変形・合体のギミックを搭載し、トップ・ファイター、ボトム・ファイターへの変形も可能である。

E LM312V04+SD-VB03A Vダッシュガンダム Ver.Ka

発売年：2010年　定価：6,090円（税込）
作品：『機動戦士Vガンダム』

ヴィクトリーガンダムの武装強化版。オーバーハング・パックの装着によって、Vダッシュガンダムやコア・ブースターを再現できた。

F LM312V04（B part）+SD-VB03A コア・ブースター Ver.Ka

発売年：2010年　定価：2,310円（税込）
作品：『機動戦士Vガンダム』

Vコア・ブースターとコア・ファイター、ディスプレイベースなどで構成された単品版。別売りのヴィクトリーガンダムと合体させることが可能。

G RB-79 ボール Ver.Ka

発売年：2004年　定価：2,100円（税込）
作品：『機動戦士ガンダム』

地球連邦軍の“やられメカ”でありながら、高い人気を誇るモビルポッド、ボールがVer.Ka化。2010年にはクリアパーツを追加したキットが再販された。

H XM-X1 クロスボーン・ガンダムX-1 Ver.Ka

発売年：2006年　定価：3,675円
作品：『機動戦士クロスボーン・ガンダム』

漫画『機動戦士クロスボーン・ガンダム』から海賊をキーワードとした機体がVer.Ka化。顔のマスク部がスライドする機構を搭載していた。

A

デストロイモードへの変形時には、可動した装甲の隙間からサイコフレームが露出する。サイコフレームの輝きは、集光性のクリアパーツを用いることで再現している。

チタニウムフィニッシュ版

変形機構などはそのままに、機体装甲をきらびやかなホワイトメッキでコーティングしたバージョン。

フルアーマーユニコーンガンダム

2011年12月に発売されたフルアーマー装備版。本キット用にハイパービーム・ジャベリンが追加された。

B

ビーム・ライフルやシールド以外に、ビーム・アックス、ビーム・サーベルなどが付属。部隊ナンバーや白いラインもデカールで再現できる。また、本機もチタニウムフィニッシュ版が発売されている。

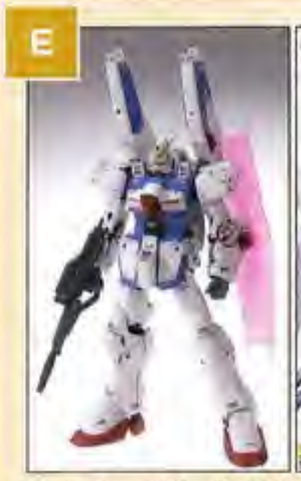
C

デザイン面でもアニメ本編から大幅にリファインされたほか、全身の可動域が大幅に拡大されている。また、コクピットブロックやマシンキャノンの開閉ギミックが再現された。

D

全高152mmというコンパクトなサイズの中に変形ギミックを搭載。劇中と同様の運用が可能となった。1／100スケールのウッソ・エヴィンフィギュアも付属している。

E



ビーム・シールドは、ヴィクトリーガンダムと同様、クリアパーツで再現された。コア・ファイターは、Vガンダムタイプとヘキサタイプの各4基がセットされている。

F

Vコア・ブースターを設置する専用の台座が付属する。また、ガトリングガンやビーム・ジャベリンなど、Vガンダム用のオプション兵装も同梱されている。

G

フォルムが細部までこだわり抜かれただけでなく、アームも可動式となっている。ディスプレイ用の専用台座と、メカニックマンのフィギュア2体が付属する。

H

背部の「X」型が特徴的なクロスボーン・ガンダムX-1。付属のパーツを組み換えることにより、「X-1改」、「X-1改・改」が再現可能となっている。

©創通・サンライズ

お買い忘れなく安心！ 発売日をメールでお知らせします！ ご登録ください

発売日 お知らせメール♪

PC用 http://deagostini.jp/oshirase/gpf/

携帯用 http://deagostini.jp/gpf/ 携帯用QRコード➡

COMING NEXT ISSUE..

《次号予告》

LINE UP

第29号　ラインナップ

MECHANIC FILE

ジム・カスタム

アルビオン

ロト

ジム・スナイパーカスタム

シェンロンガンダム

PERSONAL PROFILE パーソナルプロフィール

サウス・バニング

エイバー・シナプス

ダグザ・マックール

張 五飛

WORLD GUIDE ワールドガイド

アフリカ追撃戦

MS用実体弾式携行火器

「G」チーム

U.C.TIMELINE 宇宙世紀年表

ガンダム試作2号機、強奪

GLOSSARY ガンダム用語辞典

『機動戦士ガンダム』用語集

第29号

定価590円（税込）

4月10日（火）発売

※地域によって発売日が異なる場合があります。

ダグザ・マックール

シェンロンガンダム

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』特製リングバインダーの利用方法

1 週刊「ガンダム パーフェクト・ファイル」を各ページごとに、ていねいに切り離します。

2 ディバイダーを使って6つの章に分類し、各ページをファイルナンバーにしたがってファイリングします。

3 毎号同じようにして、全ての章をファイリングしていきましょう。

4 全号集めると、ガンダムのことがすべてわかる、ビジュアル大百科になります。

切り離した表紙を大切に保管できる、
表紙用ポケットファイル発売中!!

当社通販にて発売中！

デザインは3種類。
詳しくは、デアゴスティーニセレクト通販サイトをご覧ください。

http://deagostini.jp/select/

週刊「ガンダム パーフェクト・ファイル」全員プレゼントの応募券です。切り取って専用応募ハガキに貼り付けて、ご応募下さい。詳しくは定期購読用のお知らせ用紙をご覧下さい。

応募券 GPF-N 28

THE OFFICIAL

GUNDAM PERFECT FILE

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

28

MECHANIC FILE

ケルディムガンダム／
GNアームズ（TYPE-E／TYPE-D）／
ガッデス／ガガ／ザク・キャノン／フリーデン

PERSONAL PROFILE

ロックオン・ストラトス
（ライル・ディランディ）／
アニュー・リターナー／
シーリン・バフティヤール／
ジャミル・ニート

WORLD GUIDE

ソレスタルビーイング再始動／
センサーと通信システム／
バルチャー

AD TIMELINE

CB殲滅作戦、発動

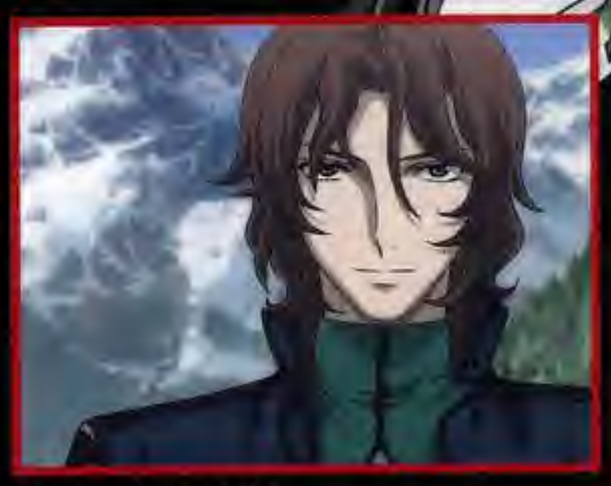
GLOSSARY

『機動戦士ガンダム』
用語集

GUNDAM TOPICS

バンダイ
Ver.Kaシリーズ

今週のMS❶
GN-006 CHERUDIM GUNDAM



ライル・ディランディ

センサーと通信システム

©創通・サンライズ
©創通・サンライズ・MBS

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル
No.28
2012年4月17日発行（毎週火曜日発行）通巻28号
発行所：〒104-6205 東京都中央区晴海1-8-12トリトンオフィスタワーZ 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
発行人：小河原和世 編集人：クロス中山慶子
書店専用注文センターTEL:03-5212-5311（月～金9:30～17:30土日祝日を除く）FAX:03-5212-5312 書店専用注文WEBサイト:http://dbooks.net/

4910205630420
00562

雑誌 20563-4/17 通巻28号
Ⓛ-2017/3/1 2012年4月17日発行

発行所―デアゴスティーニ

定価 590円
本体 562円

GN-006
CHERUDIM GUNDAM
ケルディムガンダム

GN-006 CHERUDIM GUNDAM

Illustration by KENICHI TAKASE　Color by AKEMI NAGAO（Wish）　Special effect by AKIKO YAMAKAWA（ASAHI PRODUCTION）　Background by EIJI WAKAMATSU（KUSANAGI）